

2013  
April

4 月

高校版  
Volume

1

## 2 私を育てたあの時代、あの出会い

ライバルであり、同志であり、高い目標であるその背中を追う  
静岡県・私立磐田東高校◎小泉孝秀

## 4 特集

## 新課程全面実施

新課程で  
生徒の「主体性」を育む

## 6 現状把握 生徒の主体性を育むという視点で新課程を捉え直す

10 各教科の  
教師が語る 新課程における、各教科での生徒の主体性を育む指導とは

国語 群馬県立太田女子高校 中野憲一

言語活動を通して、主体的な進路選択にもつながる多角的な視点を身に付けさせる

地理歴史科・公民科 鹿児島県立甲南高校 黒木 誠

世界史と社会とのつながりを意識させることで、主体的な学習態度を引き出す

数学 大阪府・私立大阪学芸中等教育学校 良本完爾

課題学習やデータの分析などで身近なテーマを取り上げ、数学への興味を喚起

理科 北海道札幌平岸高校 山崎恒輝

知識を体系的に習得させた上で実験に取り組みせ、生徒の主体性や創造性を引き出す

英語 愛知県立一宮高校 伊藤 智

授業を、「英語が使えた」という成功体験を積み重ねるコミュニケーションの場にする

20 教頭が語る 新課程の今こそ求められる教師の主体性と教師間の連携  
青森県立弘前高校教頭◎奈良昌孝

## 22 指導変革の軌跡

## 22 北海道北広島高校

進路指導◎生徒の心を支える面談と盤石の組織力でたくましい生徒を育む

## 26 秋田県秋田市立秋田商業高校

進学実績向上◎秋田の商業教育の伝統を後世に引き継ぐための改革の第一歩

## 30 生きたデータの徹底研究

1年生 入学直後の取り組み

## 34 未来をつくる大学の研究室

自治体と連携したネットワークにより被災地での看護活動の効率化を図る  
高知県立大大学院 健康生活科学研究科 山田 寛研究室

## 38 Reader's VIEW

リニューアル

\*本文中のプロフィールは  
すべて取材時のものです。  
また、敬称略とさせていただきます  
\*本誌記載の記事、写真の無断複写、  
複製および転載を禁じます

今、振り返る教師としての原点

私を育てた  
あの時代、あの出会い

# ライバルであり、同志であり、 高い目標であるその背中を追う

静岡県・私立磐田東高校 小泉孝秀

生徒であれ教師であれ、自ら学ぼうとする時、支え合う仲間の存在は重要だ。励まし合い、時に「負けたくない」と敵愾心を燃やす。同志と競い合う中で自分を高め、今なおその背中を追い続けているという小泉先生が振り返る。

## あの先生を上回りたい



磐田東高校の理科教師として採用されたのは、大学卒業直

後の26年前のことです。そして同校での2年目、石川佳彦先生が埼玉県の私立高校から転任してきました。

石川先生と私は、年こそ一つしか違いませんが、指導スタイル、そして力量はずいぶん異なりました。石川先生は生徒に対して「ダメなものダメ」と厳しく、丁寧に指導していましたが、生徒たちは石川先生のご敬遠などせず、それぞれ石川先生の一挙手一投足を話題にするほどで、心から慕ってい

ることが伝わってきました。また、本校は当時、就職志望の女子生徒が多かったのですが、石川先生のもとには多くの女子生徒が数学の質問をしに足を運んでいました。同じ理系教科担任として素直にすごいと思いま

たし、石川先生が初代特進クラスを担当を任されたことも、当然だと思いました。

だからこそ、石川先生と自分はどこが違うのか考えました。石川先生の指導に「自分ならそうはしない」と思うところもありましたが、成果を上げているのは確かなのです。自分とはスタイルが違うという理由で目を背け続けるわけにはいきません。石川先生から多くを盗み、その上でもっと良いやり

方、自分が納得できる指導を考え、そして先生を上回る成果を上げたい……そんな気持ち次第に高まってきました。

## 2人の力を合わせた

そういう意味では、私は石川先生と張り合っていたのかもできません。事実、私が特進クラスの担任として卒業生を送り出した時に、進学主任だった石川先生が、「自分と違うやり方でもこれだけの結果が出せることを教えてもらった」と言ってくれたことがあります。石川先生も私のライバル心を早くから分かっていたのでしょう。

そんな関係にも変化が訪れました。それは石川先生と出会って10年以上が経ったころ、進路

課長の石川先生と進学主任の私が、全教員のよりどころとなるような進学指導シラバスの作成を校長から命じられたことがきっかけです。しかし、特進クラスで成果を上げていたとはいえ、30代半ばの私たちに、全クラスに通じる確固たるノウハウがあったわけはありません。

結局私たち2人に出来ることは、これまでやってきた指導をすべて洗い出し、それをみんなに知ってもらうことでした。

1年余りの時間をかけて作成したシラバスですが、「こんな分厚い本は誰も読まない」と差し戻されてしまいました。2人ががっかりしていたところ、あるベテラン教師が「1学年主任を務めることになったが、進路

## 先輩教師の言葉

ライバルであり、  
同志であり、  
学び合う仲間

静岡県・私立磐田東高校教頭  
石川佳彦



年が近い小泉先生とは赴任直後からよく一緒に飲み

にも行きました。でも、本音をぶつけ合うようになるのは、10年くらい経ってからです。私は生徒の面倒を細かく見るタイプですが、小泉先生は生徒の自立心をうまく引き張り出すタイプ。教師として認め合っているというところもありません。

だから、同じ学年で共に特進クラスの担任を務めたのは、お互いをさらに理解する良い機会でした。私が1年生の時に受け持った生徒を、小泉先生が2年生で担任して、その後難関大に合格させた時は、「私ならあの生徒をここまで育てられたらどうか」と

左 いしかわ・よしひこ 数学科。埼玉県の私立高校を経て、磐田東高校へ。教頭。

右 こいずみ・たかひで 理科。初任以来、磐田東高校に勤務。進路課長。

撮影◎磐田東高校にて



指導に自信がない。シラバスを参考にしたい」と申し出てくれたのです。その先生は、シラバスに沿って3年間学年運営を行い、入試でも素晴らしい結果を出しました。もちろんそれは私たちの自信になりましたし、2人のやり方を融合させて、学校をもっと良くしていきたいという気持ちも芽生えてきました。

生徒を見てみると、誰が始めた指導かなどどうでもよくなりません。成果のあった指導であれば、もしも自分と相容れない部分があっても、そこから学ぶものはきっとあると確信しています。進路課長時代の石川先生は、私を学校訪問によく連れて行ってくれました。他校の取り組みを

知ることがとても良い刺激になります。それ以上に、学んだことを自校にどう適応させるかを、学校に戻って石川先生と2つの視点で深めていく時間が一番勉強になりました。

私たちが教師が何のために勉強するのかといえば、生徒の内面に昨日より一歩深く踏み込むためです。その一歩があつて救われる生徒がいるかもしれないからです。とはいえ、生徒の内面に入っていくのは大変です。だからこそ、同じ職場の同僚に学ばなければいけないと思えます。私も、大ベテランの先生にものを尋ねるのは緊張します。でも、それが自分1人で出来る研修、学びなのだと思います。石川先生を目標に出来たこと、そして先生の後を追いついて、進路主任、進路課長を任されたことは、全て自分に与えられた学びのチャンスなのです。

率直に思いました。手を掛けさえすればよいというわけではないのだと、小泉先生から教えられた気がしました。それ以降、小泉先生は私にとって大切なブレンです。

本校が進学指導に力を入れ始めたころ、私と小泉先生は教師用の進学指導シラバスの作成に取り組みました。2人で、知恵を絞りながら、お互いがやってきたことを全部出し切っただけで、とても普遍的な内容にはなっていないかもしれません。しかし、それを契機に、もっと2人で語り合っていて、お互いの指導を練り上げていかなければいけないと思うようになったのです。自分たち中堅の成長が学校全体の成長と一致していることを自覚した時期でもあります。

私と小泉先生は、先輩後輩の関係であり、ライバルであり、そして同志です。生徒を育てていくために、スタイルは違っても、同じ方向を向き、そしてお互いに学び合わなければなりません。勉強しなければならぬことはまだたくさんあります。自分の知らない世界を先輩、同僚から学び、生徒のために生かせることはないか、これからも考え続けていきたいと思えます。

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

# 特集

SPECIAL ISSUE

## 新課程全面実施

# 新課程で

# 生徒の

# 「主体性」を育む

2013年度の1年生から、いよいよ新課程が全面実施となった。そこで目指すのは生徒に生きる力を育むことであり、そのためには、主体的に学習に取り組む態度を養うこと、すなわち「主体性」の育成が必要だとうたわれている。新課程でどのような指導が、生徒の主体性を育むのか。現場の教師へのインタビューを通して考えていく。

2013年度も『VIEW21』は生徒の「主体性」の育成について問い続けていきます

2012年度の弊誌では、8月号から4号連続で、環境変化に立ち向かうために必要な力の土台として「主体性」を取り上げ、高校教育における主体性を育む指導について考えました。大学生や社会人、先生方へのインタビューを通じて感じたのは、先のない社会を生き抜く、生き残るという排他的な観点で主体性を捉えるのではなく、他者とのかわりの中で得られる多様な価値観・考え方を基に、自ら考え、判断し、他者と共に生きていこうとする姿勢こそが、これからの社会で求められる主体性なのではないかということです。この主体性をいかに育むかは、4号の特集だけで答えが得られるものではありません。13年度も、「グローバル化」「デジタル化」を始めとするさまざまな環境変化を切り口にしながら、生徒の主体性を育む指導について、問い続けていきたいと思っています。

『VIEW21』編集部 柏木崇

2012年度8～2月号で見てきた、生徒の主体性を育む指導のキーワード

試行錯誤・失敗経験

社会貢献意識の芽生え・向上

デジタル機器の活用

教師と生徒、生徒同士の対話

本号のテーマ

新課程における、各教科での  
生徒の主体性を育む指導とは

主体性育成に生かせる新課程の3つのポイント

1. 言語活動
  2. 活用重視の学習・探究学習
  3. 知識・技能の習得、定着
- 【現状把握 P.6～9】

各教科における指導の観点



国語 [P.10～12]

言語活動を通して、主体的な進路選択にもつながる多角的な視点を身に付けさせる  
群馬県立太田女子高校 中野憲一



地理歴史科・公民科 [P.12～13]

世界史と社会とのつながりを意識させることで、主体的な学習態度を引き出す  
鹿児島県立甲南高校 黒木 誠



数学 [P.14～15]

課題学習やデータの分析などで身近なテーマを取り上げ、数学への興味を喚起  
大阪府・私立大阪学芸中等教育学校 良本完爾



理科 [P.16～18]

知識を体系的に習得させた上で実験に取り組みせ、生徒の主体性や創造性を引き出す  
北海道札幌平岸高校 山崎恒輝



英語 [P.18～19]

授業を、「英語が使えた」という成功体験を積み重ねるコミュニケーションの場にする  
愛知県立一宮高校 伊藤 智



学校運営 [P.20～21]

新課程の今こそ求められる教師の主体性と教師間の連携  
青森県立弘前高校教頭 奈良昌孝

# 生徒の主体性を育むという視点で 新課程を捉え直す

新課程という環境変化を、生徒の主体性を育むチャンスとするには、学習指導要領の改訂の基本的な考え方や教育内容の改善事項をどのように捉えればよいのか。主体性を育む指導のあり方と新課程のポイントを改めて整理する。

2013年4月に全面実施となった新課程には、生徒に「主体的に学習に取り組む態度を養う」ことが盛り込まれている。また、多くの大学や企業が、高校生や大学生が社会に出る際に備えていくべきものとして「主体性」を挙げている(図1)。しかし、生徒の主体性が十分に育成できているかという点、必ずしもそうとは言えない。図2や図3を見ると、学校段階が進むにつれて、学習への取り組みが消極的になり、将来の職業への夢が持てなくなっていくことが分かる。

本誌12年度8～2月号の特集では、生徒の主体性を育むにはどのような指導が必要なのかを考えてき

図1 社会人として必要性が一層高まるもの

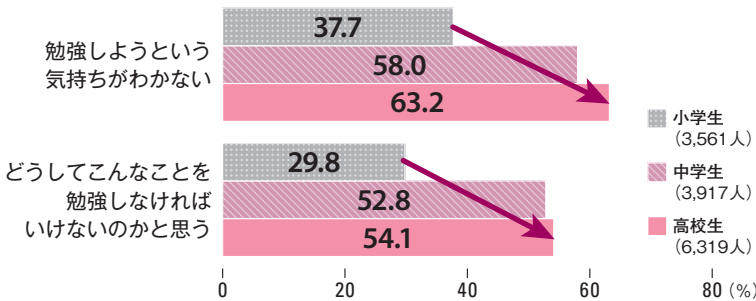
Q. 現在の高校生や大学生が社会人になるに際し、「人間力の要素」の中で、「これまで以上に備えていることを特に重視すべきもの」を1つ選んでください。

	大学	企業
1位	主体性	主体性
2位	グローバルな視点	積極性
3位	誠実さ	グローバルな視点
4位	積極性、協調性、倫理観	突破力
5位	—	協調性

注) 調査では、「人間力の要素」「知識・能力の要素」「体験的要素」に分けて尋ねた。「人間力の要素」全16項目のうち、上位5つを掲載  
出典/産経新聞社、駿台教育研究所「『時代が求める人材像』に関する調査結果」(2012)

図2 学習に取り組む意識

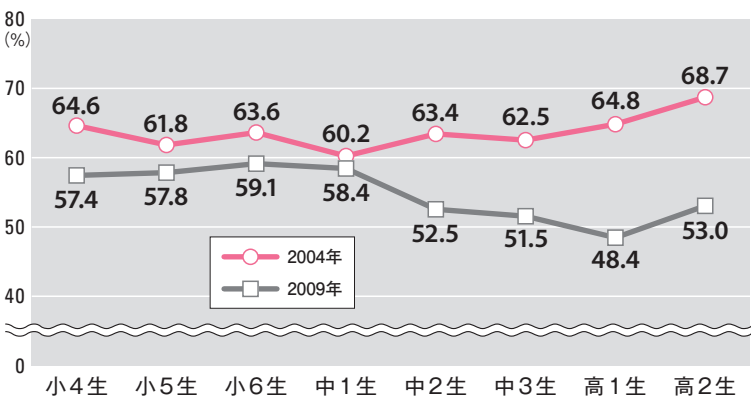
Q. あなたは勉強の取り組み方について、次のようなことがあてはまりますか。



注) 「とてもそう」+「まあそう」の%  
出典/Benesse 教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」(2009)

図3 将来なりたい職業の有無

Q. あなたには、将来なりたい職業はありますか。



注) なりたい職業が「ある」と回答した%  
出典/Benesse 教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」(2009)

た。8月号では、環境変化の激しいこれからの社会を生きる力の土台となるのが「主体性」であり、それを育むための指導のあり方について、大学生と社会人、そして教師の声から考えた。更に、指導のヒントを得るために、10月号では授業におけるデジタル機器の活用、12・2月号ではグローバル化社会における生き方を取り上げた。

大学生や社会人、教師からは、生徒の主体性を育むための指導についてさまざまな提案があったが、それらは大きく4つに整理できる(図4)。

1つめは、授業や家庭学習、部活動、学校行事において、試行錯誤や失敗経験を積ませること。2つめは、「社会の役に立ちたい」という社会貢献意識を芽生えさせ、その気持ちを行動に移させること。3つめは、生徒の学びと教師の指導においてデジタル機器を活用することで、生徒の「分かる」「出来る」を増やし、学ぶ喜びや楽しさを感じさせること。そして、4つめは、教師が生徒の心の声と向き合い、対話を重ね

図4 本誌2012年度8~2月号の特集で見えてきた、生徒の主体性を育むための指導のキーワード



### 生徒の主体性を育むための指導の観点

- 失敗して立ち直るプロセスを評価する、失敗からどうやって学ぶかを考えさせる [8月号]
- 生徒を余裕のある状態にしないよう、各教科が自信を持って生徒に課題を与え、どんどん勉強させる。そうすれば、生徒はどうしたら与えられた課題をこなせるかを考える [8月号]
- 生徒は、自分が頑張れた場所だから、地域に戻ってくる。だとしたら、教師が授業や部活動で一生懸命生徒にかかわることが、地域への愛着を育むことにつながる [12月号]
- あの時、自分の考えを英語で話せたら、もっと話が盛り上がって楽しかったのに……といった学習の必要性を認識させる出会いをつくる [2月号]
- 現実の社会が直面している課題を授業の中で考えさせ、学問と現実社会の課題が結び付いていることを生徒に伝えられれば、今学ぶことも社会貢献なのだと思える [8月号]
- 社会の役に立ちたいという思いを秘めた生徒が、自分には何が出来るのかをとことん自分に問い掛ける機会をつくる [12月号]
- クラスでの人間関係を通して、「他者のために」という意識が育った生徒は、他の人のために時間を使おうとする [2月号]
- クラスで意見をまとめる時にパソコンを使うなど、ちょっとしたことが、変化に対する抵抗感をなくし、興味を育てる [8月号]
- デジタル機器を利用して、自分に必要な情報を探し出し、解決をするという学習の枠組みをつくる [10月号]
- ツイッターなどを指導に活用して、生徒と世界をつなぎ、自分の考えを発信したい、自分と違う意見を聞きたいという欲求を満たしてあげる [2月号]
- デジタル機器の活用により、指導の一部が効率化されることで、生徒が考える活動や、教師が生徒にかかわることに時間を充てられる [10月号]
- 授業を通じた生徒と教師の対話。教師自身が視野を広げ、生徒の見いだした価値と真摯に向き合い、対話する [12月号]
- 教師が世界の動きをつかむアンテナを持ち、世界の動きが自分たちの生活にどう影響するかを生徒に語る [2月号]

試行錯誤  
失敗経験

社会貢献意識の  
芽生え・向上

デジタル機器  
の活用

教師と生徒、  
生徒同士の対話

主体性を育むための指導のキーワード

ていくことである。

そのような指導を新課程において行う時に、各教科では具体的にどのような指導が考えられるのか。

改めて高校の学習指導要領のポイントを整理してみよう(図5)。「生きる力」の育成、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成、そして、豊かな心や健やかな体の育成などの改訂の基本的な考え方の下、国語を始め各教科で批評、論述、討論などの言語活動を充実させることや、理数教育を充実させること、そして、「授業は英語で行うことを基本」とした外国語教育の充実などが、教育内容の主な改善事項として挙げられている。

しかし、これらの改善事項を取り入れて指導を行うことには、課題もある。図6は、新課程先行実施生である12年度の1年生を指導した教師に、生徒の特徴や傾向について尋ねた結果をまとめたものだ。「中学校で学習した知識」や「高校の学習内容に関する理解」そして「家庭(校外)での学習習慣」の定着度が、「低下した」または「格差が広がった」と約3割の教師が感じている。更

図5 高校の新課程の主な改善事項

### 改訂の 基本的な考え方

- ・ 生きる力の育成
- ・ 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成
- ・ 豊かな心や健やかな体の育成

### 主な 改善事項

- ・ 言語活動の充実
- ・ 理数教育の充実
- ・ 外国語教育の充実

## 国語

### 必修教科目

- ・ 現行の選択必修から「国語総合」の共通必修に変更

### 科目構成

- ・ 「国語表現I」及び「国語表現II」の内容を再構成し、「国語表現」とするとともに、「現代文A」を新設

### 主な改善事項

- ・ 言語に関する能力を育成する中核を担う教科であることを踏まえ、社会人として、また各教科等における学習に必要な能力を身に付けるため、討論、説明、創作、批評、編集などの言語活動を充実(言語活動例を「内容の取扱い」から「内容」に移し、記述を具体化)
- ・ 我が国の伝統と文化に関する教育を充実するため古典に関する指導を充実

## 地理歴史科・公民科

### 必修教科目

- ・ 旧課程から変更なし

### 科目構成

- ・ 旧課程から変更なし

### 主な改善事項

- ・ 従来の方針を継承しつつ、「思考力」や「表現力」を重視。各科目で、課題を探究する学習が項目として設けられると共に、地図や年表を始めとする各種資料の活用、論述・討論などの言語活動を重視
- ・ 必修科目である世界史は、地理や日本史にかかわる内容を充実

## 数学

### 必修教科目

- ・ 現行の選択必修から「数学I」の共通必修に変更

### 科目構成

- ・ 現行の7科目構成を、6科目構成に再編。数学の具体的な事象への活用を重視した「数学活用」を新設すると共に、「数学C」の内容はその系統性などにも配慮し、他科

### 目へ移行

### 主な改善事項

- ・ 教科目標で「数学的活動」を一層重視し、「数学的活動」の配慮事項を新たに規定
- ・ 中学校との接続や内容の系統性を一層重視
- ・ 知識・技能を活用する力を育成し、数学のよさを認識させるため、「数学I」及び「数学A」の内容に「課題学習」を位置付け
- ・ 統計に関する内容を充実し、統計活用力を育成

## 理科

### 必修教科目

- ・ 物理、化学、生物、地学のうち3領域以上の科目を履修する場合には、総合科目の履修を不要とし科目履修の柔軟性を向上

### 科目構成

- ・ 各領域ごとに3単位科目が2科目であったのを、2単位科目と4単位科目に再構成すると共に、「科学と人間生活」及び「理科課題研究」を新設

### 主な改善事項

- ・ 科学に対する興味・関心を高めるため、人間生活とのかかわりの深い内容を扱う「科

### 学と人間生活」を新設

- ・ 探究的な学習を重視する観点から、「物理」「化学」「生物」「地学」に新たに探究活動を導入すると共に、「理科課題研究」を新設
- ・ 中学校との関連を図る観点から、「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」においては、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」などの科学的な見方や概念を踏まえて内容を構成
- ・ 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」においては、日常生活や社会との関連を重視。「物理」「化学」「生物」「地学」においては、選択して履修していた項目を必修化し、指導内容を充実

## 英語

### 必修教科目

- ・ 現行の選択必修から「コミュニケーション英語I」の共通必修に変更

### 科目構成

- ・ 科目構成を変更し、4技能の総合的な育成を図るコミュニケーション科目、論理的に表現する能力の向上を図る表現科目、会話する能力の向上を図る「英語会話」に再編

### 主な改善事項

- ・ 指導する語数を充実。コミュニケーション英語I、II及びIIIを履修する場合には、高校で1,800語、中高で3,000語を指導
- ・ 生徒が英語に触れる機会を充実すると共に、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とすることを明記

\* 文部科学省「高等学校学習指導要領改訂のポイント」および「高等学校学習指導要領解説」を基に編集部で作成

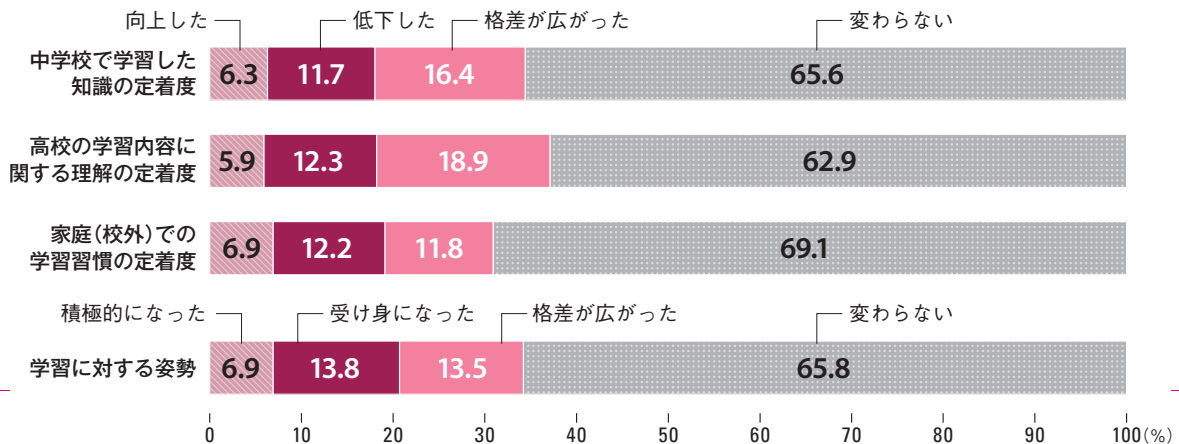
に、「学習に対する姿勢」に関して、「受け身になった」「格差が広がった」と3割近くの教師が感じており、生徒の学習に対する姿勢が消極的になっていることが懸念される。

以上のような課題を解決しながら、生徒の主体性を育む上で生かせる新課程のポイントは、全ての教科に盛り込まれた「言語活動」と、主に数学・理科で重視されている「知識・技能を活用する学習や探究する学習」、そして、それらの前提となる「知識・技能の習得、定着」だろう。これらの指導に、図4で示した生徒の主体性を育むためのキーワード、すなわち「試行錯誤・失敗経験」「社会貢献意識の芽生え・向上」「デジタル機器の活用」「教師と生徒、生徒同士の対話」の要素を取り入れることが出来れば、生徒の主体性を育んでいけるのではないだろうか。

次ページからは、各教科の教師、そして、学校運営の立場から教頭に話を聞き、新課程における主体性を育む指導とは何かを具体的に考えていく。

図6 新課程先行実施生の特徴や傾向

Q. 2012年度の1年生に関して、以下のようなことをどう感じていますか。



出典/ベネッセコーポレーション「新教育課程の指導に関する調査」(2012)

◎調査対象/高校の教務担当の教員、有効回答数:1,857校 ◎調査時期/2012年11~12月 ◎調査方法/郵送による質問調査

## 各教科の教師へのインタビューから見た 生徒の主体性育成に生かせる新課程のポイント

### ポイント1

#### 言語活動

話し合いや討論、発表などを通して、社会にはいろいろな価値基準・判断基準があることを知ることで、考えの幅が広がり、多様な価値観を受け入れられるようになる。それが、物事を主体的に判断する力につながるのではないかと。また、多少の間違ひはあっても生徒の頑張りを評価できるような「問い」を、教師が投げ掛けるなど、教師と生徒の対話を豊かにすることで、生徒が小さな成功体験を積み重ねていけば、前向きに学びに取り組むようになるのではないかと。

### ポイント2

#### 活用重視の学習・探究学習

課題学習や探究学習では、当たり前と思っていることを改めて考えさせたり、その教科の学習が必要だと感じられたりするような身近なテーマを設定することが重要だ。更に、自分たちが学んでいることと社会とのつながりを意識させるようなテーマを提示できれば、社会貢献意識が芽生え、主体的な学習態度を引き出せるのではないかと。また、探究活動などの際には、生徒に最低限の手順のみ示すなど、生徒に試行錯誤させる場面を設けることも大切だろう。

### ポイント3

#### 知識・技能の習得、定着

言語活動などを効果的なものにするには、前もって一定の知識・技能を習得、定着させておくことが必要である。例えば、理科の実験では、一度知識を体系的に吸収しておけば、どうしてこういう実験結果が出たのかと考えたり、自分なりの工夫が出てきたりして、主体的、創造的に実験に取り組むようになる。なお、知識の理解度を高める上で、デジタル機器の活用が有効な手段の1つとなる。

## 各教科の 教師が語る

# 新課程における、各教科での 生徒の主体性を育む指導とは

新課程で求められていることを教科指導に反映しながら、生徒の主体性を育んでいくためには、どのような授業、どのような課題の与え方などが求められるのだろうか。  
6教科それぞれに、担当教科での指導の変化、展望を聞いた。

## 国語

言語活動を通して、  
主体的な進路選択にもつながる  
多角的な視点を身に付けさせる

群馬県立太田女子高校

中野憲一

小説を題材に評論的な  
読解をグループ活動で行う

新課程の国語では、「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」の4技能のうち、「話すこと・聞くこと」が今まで以上に重視されており、討論や発表などを授業で行うことがより重要になると思います。生きる力の育成も引き続き大きな課題であ

り、評論や小説も作品の解釈だけでなく、とどまらず、そこで学んだものの見方や考え方が日常生活でどのように生かせるかを、生徒に意識させる必要があると感じています。

「話すこと・聞くこと」について、私は旧課程の時から、小説を評論的に読み取り、少人数で討論するグループ学習を授業で行ってきました。本校は女子校なので、話し好き、小

説好きという女子生徒の特徴を授業に生かそうと始めたものですが、新課程で重視されている言語活動と重なる部分がありました。

2012年度は3年生で『舞姫』をグループ学習の題材に取り上げました。主人公の豊太郎がその時々にとった行動が正しかったのかどうかを、「留学前後」「エリスとの出会い

前後」「相沢との再会後」の3つの時期に分けて、4人1組のグループで話し合わせ、その結果を発表させたのです。正否だけをテーマにするのではなく、エリスがかわいそうだから、正しくない」などと主観的な考えで答えてしまうので、「功利主義」「道徳」「共同体的善」の3つの概念を示して正否の判断基準にさせまし

た。道徳的に見れば、愛していたエリスを捨てたのは悪いことだが、近代的なコミュニケーションや共同体的善の観点から考えると、立身出世を目指した豊太郎の行動が誤っているとはいえないなど、評論を読む時のように、小説を論理的・客観的に読んでいくのです。

『舞姫』のグループ学習には授業の7、8コマを費やしました。先入観を持たせないために詳しい作品解説はせず、グループごとに全文を音読して作品の概要を確認させ、3つの時期における豊太郎の行動をまとめさせました。次に、グループごとに調べ学習をして、豊太郎の行動の正否についてグループの考えを発表させました。最後に、発表内容を討

論する時間を、3つの時期について1時間ずつ設けました。

討論では、発表を聞いていたグループが矛盾点を見付けて質問。それに対して、発表したグループは根拠を示しながら自説の正しさを主張します。感傷に流されない論理的な思考力を養うと共に、多角的なものの方見方・考え方を身に付けさせることを狙いとしていました。



群馬県立太田女子高校

## 中野憲一

なかの・けんいち

教職歴18年。群馬県立沼田高校、群馬県立高崎高校を経て、現職。同校に赴任して4年目。

## 群馬県立太田女子高校

○1921（大正10）年開校／全日制、普通科、女子校／1学年約280人／2012年度入試合格実績（現浪計）は、国公立大が東北大、筑波大、群馬大、お茶の水女子大、東京医科歯科大、大阪大、国際教養大などに78人、私立大が青山学院大、上智大、東京理科大学、明治大、早稲田大などに延べ508人が合格。

## 教師にも議論を活性化させる コーデイネート力が必要

調べ学習では、コンピュータ室のインターネットを使ったり、図書室の文献に当たったりして、生徒は功利主義といった用語の意味や当時の時代背景などを調べていました。当時のヨーロッパへの日本人留学生の数まで調べ、前途有望な豊太郎が女性のために身をもち崩すのは国家の損失だと、歴史背景を踏まえた自説を展開するグループもありました。

11年度の2年生では、『こころ』を題材にして同様の授業を行いました。やはり知識も豊富で精神的にも大人になる3年生の方が、話し合いが深まっていました。

教師も作品の解釈だけではなく、討論の基準として示した概念や作品の時代背景などを知らなければ、生徒の質問に答えられません。生徒の意見をうまく拾い上げ、論点を整理しながら議論を活性化させるコーデイネート力を磨くことが必要です。一方、「書くこと」にも、討論の

要素を入れています。1年次では記述問題の解答を生徒間で見せ合い、内容が良いかどうか話し合わせました。その際、分からない生徒は他の生徒に「答え」を聞くのではなく、「考え方」を聞くようにさせています。1年次では、自分と違う考えに触れさせることで、多様なものの方見方・考え方を学ばせ、2・3年次では、1年次に身に付けたさまざまな価値基準を土台にして、自分1人で考えさせることが大切だと思っています。

## 「予習テスト」導入で 家庭学習の習慣化を図る

古典は知識の比重が高い科目ですが、工夫次第で現代文と同じような言語活動を行うのは可能だと思えます。11年度は『方丈記』と福岡伸一の『動的平衡』の読み比べをさせ、変化と不変の関係について、グループで話し合いをさせました。

ただ、古典は知識もすっかり身に付けさせる必要があります。古文や漢文の内容を読解できなければ、何が書いてあるのか分からず、読み比

べなども出来ないからです。私は、古文の文法や漢文の句法などを1年次の前半にまとめて教えています。最初は活用も何も分からないため丁寧に教えますが、その後は授業であまり細かく説明しません。文法などの知識事項は、予習や復習を通して身に付けてほしいと思っています。

そのため、家庭学習は古典の予習と復習が中心になります。思考力が問われる現代文は、学んだ知識やスキルを活用してその場で読み取ったり考えたりすることが大切と考え、宿題は基本的に課していません。また、家庭学習を有効に機能させようと、12年度に、予習した内容を確認する「予習テスト」を始めました。以前から知識の定着を確認する復習テストを行ってききましたが、予習テストなら学習の役立ち度が高く感じられて達成感が得られやすく、主体的に家庭学習に取り組むようになるのではないかと期待しています。文法の説明などを予習テストの解説で詳しく行うことで、本文を読む時は読解に集中させたり、言語活動に充

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

てたり出来るのも利点です。

また、新課程では他教科の学習量が多くなるので、課題が過重にならないよう、教科間での調整が必要でしょう。ただし、「量」を調整するのではなく、「質」もすり合わせるべきではないでしょうか。例えば、国語で古語を暗記させる宿題を出す一方、他教科で論理的思考力を問うような課題を出す、生徒は暗記中心の課題を苦痛に感じるでしょうが、各教科が思考力を問う内容の課題でそろえれば、生徒も納得して取り組むのではないのでしょうか。「質」にも着目して各教科が歩調を合わせること、生徒が主体的に家庭学習に取り組むようになると思います。

### 多角的な視点を持つことが 主体的な進路選択につながる

生徒には、国語の学習を通して、世の中にはいろいろな価値基準・判断基準があることを知ってほしいと思います。物事を判断するための物差しが多ければ多いほど、自分の考えの幅が広がり、多様な価値観を受け入れることも出来るようになりま

生の岐路に立った時、多角的な視点から進むべき道を選択できるのではないのでしょうか。また、グローバル社会の中で異なる価値観に出合った

## 地理歴史科 公民科

### 世界史と社会とのつながりを 意識させることで、 主体的な学習態度を引き出す

鹿児島県立甲南高校

黒木 誠

### 論述指導は大学入試の力と 生きる力の育成につながる

新課程で最も注目しているのは、言語活動の充実です。新課程では、思考力・判断力・表現力の育成が重視されているのは周知の通りですが、私が担当する世界史には、単元ごとに課題を探究するテーマが入り、そこで論述や討論などの学習活動を重視することが明示されました。大学入試を考慮すると、地理歴史・公民で取り入れやすいのは論述でしょう。国立難関大を目指す生徒が多い本校では、個別学力試験に

時も戸惑わずに済むかもしれない。新課程の言語活動の充実が、そうした「生きる力」を高める契機になることを期待しています。

レベルの高い論述力が求められるため、今までも3年生の6月から放課後講座を週1回行い、過去問を使った論述指導を行ってきました。

難関大の論述問題を解くためには、さまざまな情報や多様な価値観を総合し、大局的・客観的に俯瞰しながら考えなければなりません。豊富な知識だけでなく、論理的な思考力や高度な表現力が必要とされます。ですから、難しい論述問題に取り組ませることで、生徒は知識の習得が不可欠であると共に、思考力や表現力を鍛えないといけないと気がきます。そうした気付きが、「もつ

と分かるようになりたい」「出来るようになりたい」という意欲を引き出すのではないのでしょうか。

また、論述問題は、時間的・空間的な範囲が広い内容であることが多く、それに対応できる力を付ける学習は、大局的な見地から歴史を俯瞰するグローバルな視点を養うことにもなります。これからの社会を生き抜く力を身に付けるためにも、世界史の論述指導は重要な意味を持つと考えています。

### 表現力向上のために 要約指導の充実も視野に

放課後講座では、3000字程度の論述を黒板に書かせ、生徒と一緒に解答を確認していきます。受講者数が少ないこともあり、生徒から「そこは捉え方が違うのではないか」という意見が出るなど、活発なやりとりが交わされることもあります。しっかりとした文章を書かせるためには、知識・技能を身に付けるだけでなく、論理的に表現する訓練も大切です。生徒が書いた論述には、歴史用語を多用していても、論点が整理されていないために、言いたいこ

とが分からない答案が少なくありません。一方、用語を最低限しか使っていないくても、論点がすつと頭に入ってくる答案もあります。それはおそらく、世界史の知識量の違いではなく、表現力の違いだと考えます。高度な論述力を身に付けるためには、国語の授業で行うような要約の指導も必要だと思います。国語や英語の取り組みを参考にするなど、



鹿兒島県立甲南高校

黒木 誠くろき まこと

教職歴23年。鹿兒島県立鹿兒島中央高校、鹿兒島県立川内高校などを経て現職。同校に赴任して10年目。

## 鹿兒島県立甲南高校

○1949（昭和24）年開校／全日制、普通科、共学  
／1学年約320人／2012年度入試合格実績 現  
浪計は、国公立大が北海道大、東北大、東京大、一  
橋大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大、鹿兒島大  
などに271人、私立大が上智大、早稲田大、同志社大、  
立命館大、西南学院大などに延べ1993人が合格。

教師が教科の枠を越えて指導法を学ぶ必要があるでしょう。

また、論述を授業で生徒全員に取り組ませるには、時間的な制約もあるので工夫が必要です。「○○法の説明をせよ」というような歴史用語の説明から入り、徐々に書く量を増やしていくとよいと考えています。

言語活動の前提には  
豊富な知識・技能が必要

論述や討論などの言語活動を行うためには、前提となる知識・技能が身に付いていなければ、議論は成り立ちません。いくら文章力があっても、十分な知識がなければ論述は出来なんでしょう。知識や技能をしっかりと教えることは、言語活動を充実させるための土台にもなることを忘れてはならないと思います。

他教科も同様かと思いますが、新課程では知識事項の習得や定着を課題に担わせる部分が増えてきます。家庭学習習慣は今以上に重要になるため、学年全体で入学時から徹底して指導することが大切になるでしょう。

う。私は知識を習得させるために、穴埋め式の予習プリントを配布しています。復習としては、市販の教材を使い、一問一答式の10分間の小テストを行っています。新課程では、予習・復習についても言語活動的な要素を取り入れて、言葉の説明などの短い文章を書かせるように意識していくつもりです。

世界史と社会との  
つながりを意識させる

新課程では、社会的な見方や考え方の成長を一層重視することも打ち出されています。世界史を遠い外国の昔話のように捉える生徒もいますが、過去があるからこそ現在があり、世界史で扱うさまざまな出来事や有名無名の人々の活動は、現代を生きる私たちにもさまざまな示唆を与えてくれます。現代社会とのつながりを意識させることも、生徒の主体的な学習態度を引き出すポイントの1つになるでしょう。

例えば、第1次世界大戦後、先進国が閉鎖的になり、貿易政策は保護

主義的な色彩が強くなります。そうした状況と、T P P（\*1）で揺れる今の日本の通商政策を交えて語ることによって、世界史が今の日本と無関係でないと感じられるようになります。

2012年度から週1回、生徒に配布している「世界史通信」も、世界史と社会とのつながりを意識させるために始めたものです。「パレスチナはなぜもめる？」「ハロウィンって何？」など、時期に合った話題や私の体験などを軽い読み物にしたプリントです。授業で関連事項が出てきた時に、「世界史通信で出てきた話題だね」と生徒に思い出させながら授業を進めています。

このように、自分たちが学んでいることと社会とのつながりを意識した時、生徒は社会貢献や将来の自分に思いをはせ、主体的に学ぶようになるのではないのでしょうか。私たち教師も、自身の哲学や世界観を絶えず生徒に語り掛け、力強く社会へ歩み出す勇気を生徒に与えなくてはならないと思います。

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

\*1 環太平洋経済連携協定

## 数学

# 課題学習やデータの分析などで 身近なテーマを取り上げ、 数学への興味を喚起

大阪府・私立大阪学芸中等教育学校

良本完爾 りょうもんとかんじ

### 社会で求められる 数学的な素養

社会では、理数力を身に付けた人材への期待が高まっています。企業で働いている方と話すとき、コミュニケーション力や課題発見力、課題解決力などに加えて、論理的思考力が求められているとよく聞きます。これは、理系分野の職業に限ったことではありません。自社の商品・サービスの必要性を論理的に説明できなければ商談を成立させることは出来ませんし、日常生活でも論理的思考力が必要とされる場面はいくらでもあります。文系学部に進学した卒業生からは、「高校時代に数学をもっと勉強しておけばよかった」「入試科目にはなかったのに、大学の勉強では数学ばかりを使う」という話を

よく聞きます。就職試験で数学のテストを課す企業もあります。そうした話を聞くと、生きていく上で数学が果たす役割は、これまで以上に大きくなっていくと感ずるのです。

新課程は、そうした社会が求める力に応じた内容になっていると思います。私が特に注目するのは、「数学Ⅰ」に加えられた「データの分析」です。高校までの数学では、基本的に正解があり、そこにたどり着く方法を考えるのが学習の中心です。しかし、社会には正解が1つとは限らない問題ばかりです。そうした中で自分の解決法を見いだすには、新聞や書籍などにある情報をうのみにせず、複眼的な思考で物事の本質を見極める力が必要です。多様なものの見方を訓練する上でも、「データの分析」の学習は有効だと考えます。

### 進路指導を兼ねた

### 「データの分析」の授業を实践

2012年度に、私は新課程先行実施の1年生を担当しました。新分野の「データの分析」では、生徒にとって身近な題材を用いて教えるのがよいと考え、1年前の3年生の定期考査の得点とセンター試験の得点の散布図を示し、そこから何が言えるのかを考察させました。

本当は生徒同士で話し合いをさせ、「定期考査の得点とセンター試験の得点には正の相関がある。つまり、定期考査の得点が高ければセンター試験の得点が高い」と導き出させようとしたのですが、時間的に厳しかったので、複数の選択肢を用意し、どれが適切かを生徒に問い掛けました。定期考査で頑張っている生徒はセンター試験でも良い成績を残すことは、これまでも繰り返し生徒に伝えてきました。今回、その裏付けとなるデータを見せることで、毎日の授業が何よりも大切なのだと、生徒は改めて実感したようです。

今回は進路指導に結びつくデータを取り上げましたが、生徒が関心を

示す内容であれば何でもよいと思います。新聞やインターネットにさまざまなデータがあるので、題材探しはそれほど難しくないでしょう。地理歴史科や公民科、理科の先生にデータ提供をお願いするなど、教科間での連携も図りたいと考えています。教師自身が常にアンテナを張り、生徒の関心を刺激する題材を見付けることが大事だと思っています。

### 課題学習で状況に応じた 柔軟性を養う

新課程でもう1つ、私が注目しているのは、「数学Ⅰ」と「数学A」に位置付けられた「課題学習」です。それぞれの科目で学習した内容を相互に関連させて、生活とのかかわりや発展的内容を扱うのが狙いですが、これも使い方次第で生徒の関心を高め、主体的な学習態度を養うことに効果があると期待しています。

具体的には、数学的な課題を自ら発見、解決していく過程を授業に取り入りたいと考えています。生徒は与えられた問題を解くことには慣れていますが、自分で数学的な課題を見付けて、その結果を考察するとい

う経験はほとんどありません。πは本当に3・14なのかどうかを考えさせるなど、当たり前と思っていることを改めて考えさせる課題にも、生徒に挑戦させたいと思っています。

また、数学が苦手な生徒には、経済学の問題を出すのもよいかもしれませんが、文系でも数学が必要なことが分かり、主体的に学習に取り組む意欲を高められるはずです。



大阪府・私立大阪学芸中等教育学校  
**良本完爾** しょうもと・かんじ  
教職歴・同校赴任歴共に14年。

### 大阪府・私立大阪学芸中等教育学校

◎1996(平成8)年開校/全日制/普通科、共学  
/1学年約130人/2012年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、北海道大、東京大、東京工業大、京都大、大阪大、神戸大などに64人、私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西学院大などに延べ300人が合格。

### 時間的な制約を いかに克服すべきか

新課程では扱う内容が増え、これまで以上に時間の制約が厳しくなるでしょう。課題学習で生徒が試行錯誤しながら考えたり、生徒同士が協同して課題に取り組んだりするためには、それなりの時間が必要です。

一方、教師には生徒の進路実現を果たすという役割もあります。「データの分析」や課題学習がどのような状況で、活動に多くの時間を割くのは抵抗がある先生もいると思います。新課程の理念を実現するためには、時間的な制約をどのように克服していくのかを考える必要があります。

その方法の1つに、デジタル機器の活用が考えられます。例えば、課題学習で「10本のくじのうち3本に当たりがあり、10人が1本ずつ引くと、最後の人が当たる確率はどのくらいか」という問題を出します。「何番目に引いても当たる確率は10分の3」が正解ですが、生徒にしてみる

と、当たりは最初の方に出る可能性が高いから、最後に引く人が当たる確率はもつと低くなると考えやすいのです。実際にくじを引いてみれば、10分の3に近付いていくと分かれますが、それを実感するまでには多くの時間を要します。そこでデジタル機器の出番です。表計算ソフトを使えば、パソコン上で何度も試行できるため時間を節約でき、生徒の納得度も高まります。

### 大学入学後も伸びる 生徒を育てたい

これまでの進路指導の多くが、とすれば大学に入れることだけを目的としていました。その結果、大学を中退する、大学卒業後も就職できないといった弊害があったのも事実です。大学に入れるだけ入れて、「その先は自分の力で何とかしろ」というのは、あまりに無責任です。大学入学後も伸びる生徒を育てるのが教師の使命であり、新課程はそうした指導へと転換するチャンスです。ただし、それは、教師一人ひとり

れだけ意識して取り組むかにかかっていると思います。教師自身が意義を見いださなければ、新課程の狙いは実現できないでしょう。

高校までは、与えられた課題に取り組むだけでよかったかもしれませんが。しかし、大学では、自分で課題を見つけて追究するスキルや姿勢が求められます。更に、生徒は答えさえ出せればそれでよく、解法をいくつも覚えるのは無意味だと思っ傾向にあります。しかし、社会にある多くの課題は、解決への道筋が1つではありません。その場に最も適した選択肢を選ぶ力が必要です。数学の学習で、複数の解法を考え、適切な解法を選ぶ経験は、生きていく上でも役に立つと考えます。

社会に出たら、生徒は自分で判断して、前に進んでいかななくてはなりません。試行錯誤しながら課題を解決する、データをみて多角的に分析する。そうした経験の積み重ねが主体的に未来を切り拓く力を育てるといふ強い信念を持って、私も試行錯誤を重ねていきたいと思っています。

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

## 理科

# 知識を体系的に習得させた上で 実験に取り組ませ、 生徒の主体性や創造性を引き出す

北海道札幌平岸高校  
山崎恒輝

## 2年次で内容を先取りし 3年次の実験を充実させる

新課程の理科で最もポイントとなるのは、基礎を付した科目2単位、基礎を付さない科目4単位を、どうバランスを取りながら教えるかにあると考えています。本校では、1年次は「化学基礎」が必修、2年次は「生物基礎」が必修で、「物理基礎」「地学基礎」のいずれかを選択、3年次は「物理」「化学」「生物」「地学」の選択としています。3年次では、いずれの科目も演習時間を十分確保するために、4単位の1単位を加えて計5単位とする予定です。担当科目の物理は2013年度の2年次に始まりますが、現時点では次のような計画を立てています。2年次の「物理基礎」では、4単位の

「物理」の内容も体系的に取り入れながら、出来るだけ進度を速めて多くの内容を学ばせ、3年次の「物理」では可能な限り実験の時間を確保するというものです。例えば、力学の放物運動では、一直線上の運動だけではなく、4単位の「物理」で扱う平面上の動きも取り入れる、電気についても深く掘り下げるといいうように、2年次で先取りするのです。2年次に実験を行い、関心を喚起する方法もありますが、これまでの経験から、低学年で実験をしても生徒の意欲は必ずしも高まらないと感じています。教科書の内容を教えた後すぐに実験に取り組ませても、生徒は教師の言う通りに手を動かすだけで、「やらされている」と思うようなのです。ところが、一度知識を体系的に吸収しておく、どうして

こういう実験結果が出たのかを考えた、もつとこうしようと自分なりの工夫が出てきたりするなど、創造的に実験に取り組むようになりま。また、学年が上がれば、数学や化学を含めて幅広く知識が蓄積されてくることから、生徒同士で話し合う時より議論が深まります。3年次は受験を意識する学年であるため、入試に出題されるポイントも伝えながら実験をすれば、より集中して取り組むという利点もあります。

## 試行錯誤させることが 実験の醍醐味

2年次で学習した内容を3年次の実験を通して振り返ることで、「知らない」と恥ずかしいという意識を生徒に持たせることも、3年次に実験をする狙いの1つです。授業で学習したばかりの内容についての実験であれば、「知らなくても仕方がない」で済むかもしれませんが、3年次では「これは知っていないといかない」「出来て当たり前」という意識で臨むため、主体的に実験に取り組めるのではないのでしょうか。生徒は、自分は実験方法を知って

いると思っけていても、いざ実験を行うと器具が使えないこともありま。自分には実践力が伴っていないと気付かせることも、学ぼうという意欲につながるでしょう。また、私は、実験時にはプリントで最低限の手順だけを示し、出来るだけ生徒に試行錯誤させるようにしています。

知識が豊富で学習意欲も高く、精神的にも成長する3年次は、理科への関心を深められる学年です。3年次の内容が厚くなる新課程は、生徒の主体性や創造性を引き出す大きなチャンスといえるでしょう。

## 授業進度や課題の内容への 細やかな配慮が必要

一方、2年次では、来るべき3年次に備えて十分な知識を身に付けさせる指導が重要です。それが、3年次での指導を左右するからです。そのためには、課題を多くし、半ば強制的に学習させる場面も必要になるでしょう。今の生徒はあまり主体的ではありませんが、教師が言うことには素直に取り組みます。私はその氣質を逆手にとり、知識の定着を図るつもりです。例えば、「物理基礎」

では、復習を目的とした課題を増やそうと考えています。

ただし、一方的に教え込むだけでは、その厳しさに学習を諦めてしまう生徒が出てくるかもしれません。そうならないように、教師は絶えず生徒と対話をし、指導した内容を生徒が理解しているかどうかを確認しながら、注意深く授業を進める必要



北海道札幌平岸高校

**山崎恒輝** やまざき・つねき

教職歴10年。北海道遠軽高校、北海道室蘭栄光高校を経て、現職。同校に赴任して1年目。

### 北海道札幌平岸高校

○1980(昭和55)年開校／全日制普通科普通コース・デザインアートコース、共学／1学年約320人／2012年度入試合格実績(現浪計)は、国公立大が小樽商科大、北見工業大、北海道大、室蘭工業大、横浜国立大、大阪大、釧路公立大、札幌市立大などに57人、私立大が北海学園大、青山学院大、上智大、明治大、早稲田大などに延べ273人が合格。

があると思います。私は「ついてきているか?」とこまめに声を掛け、生徒と一体感をつくるようにしていますが、そうした引っぱり方や興味の引き付け方は、教師の力量がものをいう場面でしょう。

また、成績上位層には、簡単には解けない難問を出し、意欲を喚起させるようにしています。例えば、演習問題では、成績中・下位層の生徒に取り組む範囲を明示した上で、成績上位層向けの発展問題を必ず盛り込んでいます。難易度に幅を持たせることも、本校のような学力層が幅広い学校には必要です。

授業進度にも留意すべきでしょう。3年次に実験時間を確保したいと思うあまりに、2年次で速く進み過ぎると、数学で関連分野を習っていないという事態が発生します。物理を学ぶ際には、数学で三角関数や微分・積分を学んでいることが望ましいので、数学科の教師と連携を密にして教える時期を考慮するなど、教科間で相乗効果が出るような授業計画を考えることが大切です。

## 社会貢献に対する意識が 学びの動機付けになる

生徒の理解を深めるために、授業でデジタル機器をもっと活用したいとも考えています。本校ではデジタル環境がそれほど整っていませんが、物理の波動分野では、実際に波が動いているところを見せたいと考え、旧課程でもプロジェクターを教室に持ち込んで生徒に波の動きを見せていました。また、演習問題の解説をする時には、生徒が解いている問題をスクリーンに映し、問題文の重要な箇所に線を引いたり、図の注目させたい部分を囲んだりしています。これは、生徒にとって大変分かりやすい指示であり、生徒の理解を深める上でとても大切なことです。

社会貢献意識を目覚めさせることで、学習意欲を喚起しやすいのも物理の特徴だと思います。例えば、原子の分野を学習することで、原子力発電の仕組みが分かれば、原発問題への関心が深まり、その解決のため原子力分野に進もうという生徒が

増えるかもしれません。新課程で核分裂や原子が必修となったのは、大きな意味があると思います。

原子力発電所に関するニュースを見聞きして、漠然と「核は怖い」と考えるだけでなく、何が危険なのか、何に気を付ける必要があるのかを考えさせることが大切です。震災の時も、原発の仕組みが分かっていたら、原子炉建屋の中で何が起きているのかを推測できたはずですが、社会貢献意識を高めたり、社会への視野を広げたりすることは、生徒の物理への学習意欲を高めると共に、生きる力を付けるための重要なポイントになるでしょう。

## 世の中の見方が変わることに 気付けさせたい

新課程の学習内容は、中・長期的に見ても、生徒の理科的な素養を高める上で大きな意味を持つと考えています。今後、多くの高校で、文理を問わず「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」の3科目を必修にするのではないのでしょうか。

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

特に文系の生徒には、物理を学ばせるべきだと思えます。放射線に限らず、音や光、電気など、身近な物理現象に対する理解を深めることで、世の中の見方が変わります。幅広い知識・考え方を身に付ければ、

世の中に流布する情報に惑わされず、主体的に物事を判断する力が身に付くことに気付く生徒も少なくないでしょう。新課程が、生徒が学ぶ大切さに気付くきっかけをもたらしてくれることを期待しています。

## 英語

# 授業を、「英語が使えた」という成功体験を積み重ねる コミュニケーションの場にする

愛知県立一宮高校 伊藤 智

## 新課程を先取りした 言語活動重視の授業に手応え

新課程の最大のポイントは、授業をいかに実践的なコミュニケーションの場に来るかにかかっていると考えます。従来の授業では、教師の一方的な説明が多く、生徒が英文を読むとしても、数人が音読する程度でした。しかし、新課程では、生徒が英語を話し、聞き、書き、読み、互いにかかわり合う機会を取り入れることが求められています。

私は2013年3月に卒業した生徒を3年間受け持ちましたが、1年次から授業に言語活動を多く取り入れてきました。英作文を生徒同士で添削し合ったり、英語で自分の考えを伝え合ったりする活動です。英文の力が向上すると考えて取り入れていたのですが、意外だったのは、そうした活動を大学入試直前の3年生が実に楽しそうに取り組むことでした。自分のためになると分かれば、入試に直接関係しない活動でも生徒は積極的に取り組むのです。

そして、13年度のセンター試験では、多くの生徒が好成绩を上げました。言語活動重視の授業は受験学力の向上にも有効であり、この3年間の実践を通して、新課程における指導の方向性がおぼろげながらつかめたのではないかと感じました。

## 4 技能の全てを 取り入れた授業を实践

コミュニケーションというと、「聞くこと」「話すこと」を思い浮かべるかもしれませんが、私はそれに「読むこと」「書くこと」を加えた4技能の全てがコミュニケーションに必要なスキルだと捉えています。自分が「話す」、あるいは相手が話すことを「聞く」のはもちろん、文章を「書いて」伝えたり、人の書いた文章を「読んで」理解することもコミュニケーションです。英語によるコミュニケーション能力を高めることは、英語の4技能を総合的に高めることと同じだと思うのです。

ですから、新課程での授業は、4技能をバランスよく学べるような構成にすることが重要だと考えます。本校では、1年次に「コミュニケーション英語I」「英語表現I」を履修させます。「英語表現I」で予定している授業の流れを簡単に説明します。

「英語表現I」では、教科書の1レッスンを基本的に2コマの授業で完結するように進めます。1コマ目は、レッスンで扱う文法事項を説明し、問題演習で定着を図ります。教師が説明する時間をなるべく短くし、問題演習の時間を長めに取るのがポイントとなります。次に、レッスン冒頭にある例文を、教科書を見ずにCDを聞き取って内容を把握させます。その上で、例文の黙読により内容を確認させ、音読を10回程させた後、最後に例文を全て暗記するように指示します。そして、復習を兼ねて、例文の暗唱と文法の問題演習を宿題にします。

2コマ目は、教科書の残りのセクションに取り組み、レッスンの締めくくりとなる自己表現活動（自由英作文）をさせます。宿題で下準備をしてきた自由英作文を仕上げ、おおよその内容をインプットしたら、その内容を他の生徒に口頭で伝えさせます。出来た自由英作文は、2週に1回、ALTの授業で1人ずつ暗唱

したものを発表させ、スピーキング力も鍛えたいと考えています。

## 家庭学習は 予習から復習重視へ

教科書は、4技能をバランスよく学べるものを選びました。ただ、英語表現の教科書なので、読む量がやや不足しています。副教材に使う文



愛知県立一宮高校

## 伊藤 智 いたう・さとし

教職歴23年。愛知県立鯉江高校(2007年廃校)、愛知県立一宮西高校を経て現職。同校に赴任して8年目。

## 愛知県立一宮高校

◎1919(大正8)年開校/全日制・定時制・普通科・ファッション創造科 共学/1学年約360人/2012年度入試合格実績(現浪計)は、国公立大が北海道大、東京大、東京工業大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大などに257人、私立大は、慶應義塾大、早稲田大、南山大、同志社大、立命館大などに延べ579人が合格。

法の参考書はリーディングが充実したものを選び、教科書を補えるようにしました。

家庭学習は、予習中心から復習中心に転換させる予定です。予習を必須にすると、生徒によって理解度にばらつきが生じるため、かえって授業がしづらくなる懸念があるからです。復習なら、授業で一度学んだ内容なので生徒も取り組みやすく、もっと勉強してみようという意欲にも結び付くと考えています。

課題量は増やすつもりです。新課程の生徒は、中学時代にある程度の量をこなしてきたはずなので、多少負荷を与えてもついてこられると考えています。もちろん、課題を与えるだけで生徒が自律的に学習するとは限りません。私自身、3年生ならこれくらいの説明で分かるだろうと考え、簡単な指示しかしなかったところ、課題に全く取り組んでこなかった生徒が何人もいた経験があります。まず、課題の取り組み方を理解させ、計画表や提出期限を示すくらいの支援が必要でしょう。方法

さえ分かれば、自分なりに工夫する生徒が出てきます。主体性を育むには、まずは手を掛けることが今の生徒には必要だと思います。

それは、答えを全て教えるということではありません。例えば、入試前の英作文の添削指導では、文法や単語の間違いは指摘しますが、正解までは教えません。どのように直せばよいのかを生徒自身に考えさせることによって、知識もより定着し、自分で勉強しようという気持ちも引き出せるのです。

## 英語を使えたという 成功体験が主体性を育む

授業をコミュニケーションの場とするために、生徒が英語を使いやすい雰囲気をつくることも重要です。生徒が文法的に多少間違った英語を話したとしても、ある程度意味が通じれば良しとする。ペアワークで言葉が出てこない生徒には、机間指導をしながら必要な単語を少し教える。生徒が英語を使えるように支援したり意欲を高めたりする指導が、

教師には求められると思います。

自分の英語が相手に通じたという経験は、生徒にとって大きな自信になります。文法的に間違った英語を話した生徒にも、伝えたかったであろうことを教師が英語で質問し返して、答えられたら「OK」と言って座らせる。それだけでも、生徒は英語が通じたと思いい、うれしそうな顔をするものです。文法の間違いは後で指摘することが必要ですが、そのような小さな成功体験の積み重ねが、「もっと英語が出来るようになりたい」という前向きな気持ちを引き出し、主体的な学びに導くのではないのでしょうか。

そういう意味で、教師が授業改善にしっかり取り組みさえすれば、新課程は生徒の学習意欲を高め、主体的な学習態度を醸成する上で追い風になることでしょう。使える英語を授業で身に付けさせることが出来れば、大学入試にも対応できる。そうした考えを持つ教師が増えていけば、日本の英語教育も大きく変わっていくはずですよ。

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

# 新課程の今こそ求められる 教師の主体性と教師間の連携

青森県立弘前ひろさき高校教頭 奈良昌孝

新課程で生徒の主体性を育むために、学校全体、また管理職としてすべきことは何か。  
青森県下随一の進学校で進路指導主事を長く務め、現在は教頭の奈良昌孝先生に聞いた。

「教わる・教える」授業から  
「自ら学ぶ」「学び合う」授業へ

「学ぶ(学習)」には、「教わる」「自ら学ぶ」「学び合う」の3つの要素があると、私は考えています。今までは、生徒にとって「教わる」ことが学びの中心であり、教師も「教える」意識を強く持って授業を行っていたと思います。ところが、新課程では、生徒に「主体的に学習に取り組む態度を養う」ことが盛り込まれました。つまり、生徒が「教わる」だけでなく、「自ら学ぶ」「学び合う」ような授業を行うことが求められているのです。

「自ら学ぶ」「学び合う」ために

は、まず「教わる」ことで、知識を蓄積しなければいけません。これまでのように、基礎・基本の定着を図り、そのための予習・復習が重要であることには変わりはありません。しかし、教わるだけでは、学びの第一段階で止まっており、更なる成長も望めません。主体的に学習に取り組む態度を養うことは、学びのバランスが良くなることにもつながると考えます。

また、新課程では、旧課程に引き継ぎ、生きる力の育成が掲げられています。変化が速い社会で、今後どのような知識・スキルが必要とされるのか分かりません。だからこそ、幅広い知識や教養を高校時代にも身

に付けさせる必要があると考えます。本校では、1年次の理科で「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」を必修としました。文系に進む生徒も理科的素養をきちんと身に付けて社会に送り出したいと考えたからです。

このように、新課程の趣旨を具現化することは、生徒が生涯成長し続けるための本来の学びが実現できる機会となるのではないのでしょうか。

失敗談を話すことが  
チャレンジへのきっかけに

生徒が教わることから一歩進み、自ら学び、学び合うためには、まず授業を見直す必要があると思います。1つは、生徒が試行錯誤をしま

すい場面を入れることです。私の担当科目は化学でしたが、例えば、実験では手順を全て教えず、生徒に器具の扱いなどを考えさせながら取り組ませることもありました。そうすると、反省を生かして2回目に取り組みたいという生徒が出てきます。2回目で成功すれば、よく考えたことを褒め、次の学びにつながるような発問を投げ掛けます。うまくいなくても、成功した生徒を紹介して学びに結び付けて、自ら学ぶ姿勢を引き出すようにしています。

2つめは、教師が自分の失敗を話したり、先輩の経験を伝えたりすることです。それらは、今多くの先生が行っていると思いますが、これ

からはいつそう重要な意味を持つと考えます。今の生徒は、自分には越えられない壁だと思つくと、立ち止まってしまふ傾向にあります。失敗を極端に怖がり、なかなかチャレンジしようとしないうのなら、本人が経験をしなくても、他者の失敗から学びを得られるようにするのがいい。私は、自分の授業や進路指導、部



青森県立弘前高校教頭  
**奈良昌孝** なら・まさたか

教職歴29年。青森県立弘前南高校、青森県立弘前高校に教員として10年勤務後、青森県立田名部高校教頭として2年の勤務を経て、現職。青森県立弘前高校教頭としての赴任は1年目。

#### 青森県立弘前高校

○1884（明治17）年開校／全日制、普通科、共学  
／1学年約280人／2012年度入試合格実績 現浪計）は、国公立大が北海道大、弘前大、東北大、筑波大、京都大などに145人、私立大が慶應義塾大、中央大、法政大、早稲田大などに延べ150人が合格。

活動などでしてきた失敗をよく生徒に話しました。自分の経験を教訓に次へ進んでほしいという思いもありますし、またそうした話は、「先生も失敗するんだ」と生徒が教師に心を開きかけにもなるからです。

#### 変革期だからこそ 教師間の連携を強化

課題をただ与えるのではなく、生徒が一步踏み出せるような働き掛けをする。最初の一步が出れば、自然と次の一步が出て、後は自然と前に進んでいけるでしょう。ただし、その一步を踏み出すきっかけになることは、生徒は皆、同じではありません。学年団や学校全体で一貫性を持ち、諦めずに指導を継続していくことが何よりも重要です。

また、新課程では、学習内容が増えた分を旧課程での授業に上乗せするだけでは、教師も生徒も逼迫するだけです。変わった時こそ、授業を見直すチャンスです。以前にこう使っていたから、これからも同じで

よいということはありませぬ。授業に求められることが変わったのですから、教える内容を選び直し、教材を見直すべきです。もちろん、それは簡単なことではありません。でも、教師は1人ではありませぬ。教科内で知恵を出し合えば、より良い方法が見付かるでしょう。

このように、新課程を具現化していく上で、教師間の連携強化は必須のものであり、学校力が試されるものだと感じています。

#### 新課程は次代を担う 教師を育てるチャンス

指導の変革期にあつて、私が教頭として出来ることは、現場の先生方からの提案が実現しやすい環境を整え、その取り組みを見守ることだと考えます。もちろん、逸脱している時には軌道修正が必要ですが、やってみたいということにはまず受け止め、自由に取り組ませるのです。指導に失敗があつてはなりません。が、より良い指導を追求するためには、自ら課題を見いだし、解決策を

考え、実行することが必要です。新課程という環境変化は、生徒のみならず、教師にも主体性が求められているのであり、教師としての力を伸ばすチャンスでもあります。

提案を実現させる過程では、経験豊富な管理職のアドバイスも必要でしょう。私は、先進校の取り組みや研修会の情報を伝えたり、自分の失敗談を話したり、取り組みがより有益になるように声を掛けています。

また、先ほど述べたように、新課程の具現化には、教科、学年団、分掌と、教師間の連携が必須となります。そこで重要な役割を果たすのが、学年主任、進路指導主任などのミドルリーダーです。力のある先生に任せるだけでなく、「立場が人を育てる」という言葉があるように、変革期の今だからこそ、これからの成長を期待する先生を抜擢することも考えられるでしょう。

次代の学校をつくる教師を育てるのは、管理職の役目でもあります。そうしたチャンスとしても新課程は捉えられると考えています。

\*プロフィールは2013年3月時点のものです



◎「自主創造・誠実信頼・刻苦試練」を校訓とする。2011年度に単位制に移行。生徒のさまざまな進路希望に対応できる科目選択、少人数授業や習熟度別授業によるきめ細かい指導を実践する。「文武両道」を伝統とし、部活動も盛んに行われている。

設立	1978(昭和53)年
形態	全日制／普通科／共学
生徒数	1学年約320人
12年度入試合格実績(現浪計)	<p>国立大は、旭川医科大、小樽商科大、北海道大、北海道教育大、室蘭工業大、東北大、京都大、神戸大などに173人が合格。私立大は、藤女子大、北星学園大、北海学園大、北海道医療大、青山学院大、中央大、法政大、早稲田大、立命館大などに延べ377人が合格。</p>
住所	〒061-1112 北海道北広島市共栄305-3
電話	011-372-2281
Web Site	<a href="http://www.kitahiro.ed.jp/">http://www.kitahiro.ed.jp/</a>

北海道  
北広島高校

進路指導

# 生徒の心を支える面談と 盤石の組織力で たくましい生徒を育む

変革のステップ

<p><b>背景</b></p> <p>◎学区統一により札幌市からの進学者が増加。単位制への移行も重なり、入学者の状況に変化</p> <p>STEP 1</p>	<p><b>実践</b></p> <p>◎環境変化の中でも、学校生活全てに全力を尽くさせながら、同時に面談指導を軸として生徒を支える指導は継続</p> <p>STEP 2</p>	<p><b>成果</b></p> <p>◎学校生活を楽しみながら希望進路を実現する生徒の姿が、難関大を含めた高い国立大合格実績に結び付く</p> <p>STEP 3</p>
--	---	--

学区統一、単位制への移行  
押し寄せる環境変化の波

2009年度入試での学区統一以降、北海道北広島高校は度重なる環境変化に直面してきた。

学区統一前、北広島市の属する石狩管内は7学区に分かれていたが、学区統一により、札幌市も含めた石狩管内全体が1学区となった。公立・私立とも有力校のひしめく札幌市が同一学区になったことで、同校を取り巻く環境は一変した。地元の中学校の成績上位層の中には、札幌市内の高校を目指す生徒が現れ、それにより同校では、入試倍率が下がったり、第1志望に手が届かなかった生徒が入学したりするようになったのだ。進路指導部長の浅井清志先生は次のように話す。

「多くの学校が受験対象となる中で、本校の良さや魅力を受験生に十分に伝えきれないこともあったと思います。本校に入学した生徒の中には、学力は高くて、学習意欲や本校への期待が低い生徒も見られました」  
11年度に同校が単位制になったことも、環境を大きく変えた。推薦入試との兼ね合いで一般入試の定員が1クラス分以上削減されたこともあり、入試難易度が上がると噂が広がった。従来の受験層においても同校の受験を控える動きがあり、入学者の学力に若干の懸念も生じた。

## 学校生活全てに全力で頑張る たくましい生徒を育てたい

こうした環境変化の中、大学入試実績は、北海道大を始め、国公立大合格者数などについて変わらぬ実績を挙げ続けた。この実績に後押しされてか、高校入試の倍率や受験生の学力レベルも落ち着きを見せている。

こうした状態の背景には、自ら夢を描き、実現できる生徒の育成を目指し、そのために生徒をしつかり支えるという同校のスタイルを貫いて



**浅井清志** あさい・きよし  
北海道北広島高校  
教職歴30年。同校に赴任して7年目。進路指導部長。「どのような立場になっても、決して偉ぶらないようにする」



**島田勝教** しまだ・かつり  
北海道北広島高校  
教職歴31年。同校に赴任して12年目。2年次主任。「生徒に正面から向き合い、常にポジティブでありたい」



**八鍬秀明** やくわ・ひであき  
北海道北広島高校  
教職歴18年。同校に赴任して14年目。1年次主任。「無理をしないで怠けない。とことん生徒を理解する」



**正本英明** しよும்と・ひであき  
北海道北広島高校  
教職歴15年。同校に赴任して3年目。3年次担任。「自分は日本で一番力のない高校教師。だからこそ謙虚に学び続けなければならない」

できたことがある。2年次主任の島田勝教先生は、同校の方針を次のように述べる。

「本校では、夢を描き、その実現に向かって歩み続けられる、社会でたくましく生きていける人材の育成を目指しており、大学に行くことはその過程でしかありません。社会では、未知の課題や困難を乗り越える力が求められるでしょう。このような力は、机上の学習だけで養えるものではありません。だからこそ、本校では、**学習、部活動、行事など、学校生活の全てで全力を尽くし、目の前にあることや苦手なことから逃げない姿勢を育みたいと考えています**」

学校生活の全てに対して全力で取り組ませる同校に不可欠なのが、生徒の心を支える指導体制だ。

「本校の生徒の多くは、素直でどちらかというと控えめです。向上心はありますが、実際に向けて不安も感じています。学習や部活動で高いレベルを求めめるだけではなく、彼らの不安な気持ちに寄り添い、支えることで、生徒は心が折れずに全力で頑張り続けることが出来ると考えています。本校では、**進路指導とは生き方を考えさせることと捉え、『総合的な学習の時間』などで、社会の課題や学ぶ意味などについて考え、生き方を自ら判断させる指導をしています。生徒を支える指導があるからこそ、自ら考え、判断させる指導**

が出来るとだと思います」(浅井先生)

## 3年間を通じた面談指導で 希望進路を実現する力を伸ばす

生徒を支える指導の柱の1つは、体系化された面談指導だ。面談を重視するようになったのは10年程前のことだと、1年次主任の八鍬秀明先生は話す。

「私が本校に赴任して4年が経った頃、当時の学年主任が面談重視の方針を打ち出しました。担任が生徒と向き合い、生徒に寄り添いながら学習や生活のさまざまな不安を取り除いていく中で、生徒の教師への信頼感が目に見えて増し、その結果、大学入試で高い実績を挙げることが出来たのです。私たちは面談の効果を実感し、以後、面談は指導の基盤として重視されるようになったのです」

同校には3カ年分の進路面談計画がある。どの年次も年3、4回の面談を行うことを基本とし、年次・時期に合わせて「生活」「進路等」に分け、確認すべき内容を整理している(P.24図)。例えば、2年次第1回の「生活」では「クラスへの適応(孤立させない)」「部活動について」、第3回の「進路等」では「興味ある学問分野や将来の展望」「志望校群と選択科目」などで、担任が気を付けるポイントも示している。実施時期は計画に示されているが、計画にし

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

図 「平成24年度 2年次 進路面談計画(案)」(抜粋)

第1回 4月 5月	生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスへの適応(孤立させない)</li> <li>・部活動について</li> <li>・家庭環境・生活習慣・親子関係・交友関係</li> <li>・基本的な生活習慣の確立(欠席、遅刻、服装、頭髪など)</li> </ul>
	進路等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲の喚起(「勉強は好きか嫌いか」「なぜ勉強するのか」など)</li> <li>・授業に対する姿勢(授業の感想、得意・不得意、予習・復習の習慣)</li> <li>・将来の夢や希望</li> <li>・興味・関心のある分野</li> <li>・自己の適性の把握(スタディーサポート、進路希望調査を参考に)</li> </ul>
	留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスが変わり、不安を抱いていないか、溶け込めているか、友人がいるかなどを把握する。</li> <li>・3年次の科目選択に向けて、自己の興味・関心、能力・適性を把握させていく。</li> </ul>
第2回 6月 7月	生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスへの適応(孤立させない)</li> </ul>
	進路等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の夢や希望</li> <li>・興味・関心のある分野</li> <li>・自己の適性の把握</li> </ul>
	留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスにうまく溶け込んでいない生徒に対し、適切なアドバイスをする。</li> <li>・進路目標について、「全く決めることができない」「迷っている」生徒の状況を把握し、科目選択に向けて考えるべきことを整理するきっかけをつくる。</li> </ul>
7月～8月 保護者懇談(または三者面談)		

「平成24年度 2年次 進路面談計画(案)」には、2年次に行う第1回～第4回の面談の観点と留意事項を示している \*学校資料を基に編集部で作成

からの語り掛けではなく、生徒の思いをアウトプットさせることを大切にします。それにより、生徒が自ら考え、自身の言葉で語ることができ、自分のしたいことに気付くと思えるようになります。こうした経験が主体的に進路を考える力や自ら希望を実現していく力を育む

と思いますし、言語活動ともいえるアウトプットの積み重ねは、入試での小論文や面接にも生きて考えています」

### 教師への信頼があれば 生徒は勇気を持って学びに向かう

面談の内容を記録し、教師間で共有するツールとして、同校では「進路面談記録」が用意されている。生徒の生活・学習の状況、生活や進路への期待や不安などを記録し、3年間の生徒の変化を把握したり、クラス替え時の引き継ぎ資料として活用したりする。

「まともな時間を取れなくても、休み時間や放課後などのすき間時間を活用しています。清掃時間などに一言一言、声を掛け、表情を見るだけでも、生徒の様子が分かります。生徒にとっても話しやすい雰囲気になるようです」(八鍬先生)

面談で大切にしていることは、生徒に自分で考え、発言させることだと、浅井先生は話す。「面談では、こうした方がよいという教師

進学校でありながら、なぜここまで手厚い面談指導をすることにこだわるのか。赴任3年目で3年次担任の正本英明先生は次のように話す。

「赴任当初は、学校中で面談が頻繁に行われていることに驚きました。一見、生徒が教師に依存しているようにも見えましたが、私は、面談指導によって信頼関係が生まれているのだと感じました。面談をきっかけに生徒の目が教師を向き、困った時には教師が支えてくれると思えるようになれば、それが自立への足掛かりとなり、生徒は勇気を持って学びに向かい、進路実現に向けて力強く進めるようになるのだと思います。私も自然と面談指導に力を入れるようになっていました」

### 強固な組織力により システムとノウハウを継承

組織的な面談指導が可能なのは、3学年が足並みをそろえて、情報を共有する体制にある。

「本校の強みは、圧倒的な指導力のある教師がいるというよりも、むしろ組織力があることです。先生方は皆、責任感が強く、学年全体、学校全体で生徒を育てようという意識を持っていきます。教師間で密に連絡を取り、情報を共有していること、そのシステムとノウハウを受け継いでいることが、今の本校を支えていると思います」(島田先生)

同校では、10年程前から3年間の指導ストーリーを構築し、改善してきた。1年次から3年次まで3年分の学校行事やテスト、模試などの予定が流れとして見られ、それぞれの時期に生徒にどのような指導をし、どのような意識を持たせたいのかが分かるようになっていた。進路指導部を中心とした学年団がこの計画をよりどころにすることによって、教師の異動や担当学年の変更があっても、学年間で大きな差異が出ることのない指導が可能になった。

また、情報を共有するために、教科会議、学年会議、分掌会議などあらゆる会議の内容を全て記録し、公開している。いつでも誰でも閲覧できるように、常時2年分の会議録が職員室にファイリングされ、職員室のパソコンには5年分の記録が保存されている。

学年ごとに月2、3回発行する「進路だより」は、原則として校内で共有される。ある学年で新たな取り組みが始まれば、すぐに他学年にも取り入れられる。上の学年の「進路だより」を見れば、次年度に何をすればよいのかという方針も立てやすい。

「私は、『進路だより』を複数年分、ファイリングしています。紙を配るのは単純なことですが、この蓄積は大きな財産になっています。初めての学年であっても指導のポイントを受け継いで指導することは、生徒にとって何より必要なことです」(八鍬先生)

## 「当たり前」が実現できる 学校の誇りと伝統を正しく伝えたい

これまでに培われてきたシステムとノウハウに、組織力や日常の情報共有が重なることは、生徒の確かな進路実現の源泉になっている。12年度入試では、過去5年間で国公立大合格者数が最高となり、京都市に2人が合格した。毎年まとめられる卒業生の合格体験記には、「仲間と共に闘う団体戦の北広」「学校生活を楽しく」「逃げずに頑張れ」「先生方を信じて」という言葉が並ぶ。教師の支えのもと、夢へ向かってたくましく歩む生徒が確かに育まれている。今後の課題は、同校の正しい姿を、地域の中

学生や保護者などに伝えていくことだと、島田先生は語る。

「残念ながら、本校に、勉強ばかりの窮屈な学校だというイメージを抱いている方もいるようです。しかし、本校は、部活動や行事など、学校生活の全ての場面で仲間と共に楽しみながら、謙虚な気持ち、諦めない気持ち、達成感などを学べる学校です。当たり前のことですが、実は実現が難しい『当たり前』が伝統となり、先輩から後輩へ引き継がれていることが、本校の何よりの誇りです。真の本校の姿が、きちんと伝わるよう、中学生や保護者、地域の方へ発信していきたいと思っています」

## 情熱 若手教師が語る、指導変革への

### 本校の良さとベテランの先生方の エネルギーを受け継ぎたい

3年次担任 正本英明

本校以前の私の赴任歴は、職業学校と郡部の総合学科でした。センター試験を受験する生徒を指導するのは初めてだったので、赴任当初は本校の生徒にふさわしい進路指導が自分に出来るのかと不安に感じていました。赴任当時、30代以下は私を含めて数人のみ。周りはベテランの先生方ばかりという環境で、進路指導の基本を学べたことは幸運でした。また、本校の学習指導・進路指導の多くは体系化され、ノウハウが蓄積されているので、それらを参考にしながら、とにかく必死に教材研究や進路指導に取り組みました。

本校に赴任して最も驚いたのは、ベテランの先生方が情熱を持って、エネルギーに生徒に向き合っていることでした。私とその年齢になった時、そこまで出来るのかと考えると身がすくむ思いもしますが、そうした先輩方の姿を見ているからこそ、自分も頑張らなければと強く思います。

今後も、生徒に真正面から向き合い寄り添う本校の伝統は、しっかり継承していきたいと思っています。これから新たに本校に赴任される先生方には、一見、泥臭い指導だと映るかもしれませんが、その「泥臭さ」こそ良さであり、これまでの先生方の思いを知っている自分こそが、今の本校の様子を次の先生方に伝えていかなければならないと感じます。良い点は継承した上で、その良さが保護者や地域に正しく伝わるように、情報発信に尽力していきたいと思っています。

今回のテーマに関連する過去の記事はBenesse教育研究開発センターのウェブサイトでご覧いただけます。

2012年10月号指導変革の軌跡「埼玉県・私立西武学園文理中学・高校」など

▶▶▶ <http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け)



◎校訓は「感謝・勤勉・鍛錬」。会計、流通経済、情報の3コース制。2004年に文部科学省「目指せスペシャリスト」研究指定校、08年に秋田県金融広報委員会「金融教育研究校」の指定を受ける。部活動が盛んで、レスリング部、野球部、吹奏楽部などが全国レベルの活躍をしている。

設立

1920(大正9)年

形態

全日制/商業科/共学

生徒数

1学年約240人

12年度入試合格実績(現浪計)

国公立大は、岩手県立大に1人が合格。私立大は、ノースアジア大、東北学院大、専修大、中央大、明治大などに延べ63人が合格。

住所

〒010-1603  
秋田県秋田市新屋勝平台1-1

電話

018-823-4308

Web Site

<http://www.edu.city.akita.akita.jp/~akisho/> (旧サイト)  
<http://akisho.ed.jp/> (新サイト)

秋田県秋田市立  
秋田商業高校

進学実績向上

# 秋田の商業教育の伝統を 後世に引き継ぐための 改革の第一歩

変革のステップ

背景

◎全国の商業高校の中でも国公立大合格者数が少なく、進学も出来る商業高校へ脱皮するための改革に着手

STEP 1

実践

◎生徒指導の徹底、朝学習の充実、模試の活用、資格取得指導の強化により、生徒の学力向上・進路意識改革を図る

STEP 2

成果

◎資格取得者が急増し、2013年度入試で目標の国公立大合格者数2桁を達成。学力向上の効果で就職状況も好調

STEP 3

秋田県の商業教育の  
伝統を守るために

秋田市立秋田商業高校が学年主任の宇佐美晋哉先生の下で進学実績向上の取り組みを始めたのは、2010年4月のことだ。1年部主任となった宇佐美先生が掲げた目標は、国公立大合格者数2桁。ここ数年の合格者数は1桁台と、全国の商業高校の中でも低迷していたことを考えると、高いハードルだった。宇佐美先生がこの目標を宣言した背景には、同校の存続、ひいては県の商業教育への強い危機感があった。

「大学進学率が50%を超え、特に国公立大志向が高まる中、高校には社会のそうしたニーズに応える義務があります。就職と部活動の実績で地域から認められていても、社会の変化に応じて多様な要望に応えることが出来なければ、いずれは行き詰まるでしょう。今、手を打たなければ、秋田の商業教育の伝統が途絶えてしまうと思いました」(宇佐美先生)

13年度、県内高校の統合再編により、同校は県で唯一の商業高校となる。1校だからこそ地域の目は同校に集まり、地域の期待に応えられなければ、段階的な縮小もあり得ると宇佐美先生は考える。そうならば部活動の競技力維持も難しくなり、これまでのような実績を上げることは厳しい。それは、文武両道を校是とする同校にとって、学校の根幹が崩れることを意味する。

「本校は20年に創立100周年を迎えます。創立時には100年後を見据えて教育に取り組んだ教師がいたでしょう。そして、100年後には、未来を見据えて行った教育の成果を待つ人たちがいます。私たち教師は、学校の過去、現在、未来に責任を負っているのです。それが歴史の連続性であり、そうして伝統が築かれていくのです。次の100年を見据えて、本校が進むべき方向性を見だし、社会環境の変化に対応できる素地をつくる必要があると考えました」(宇佐美先生)



秋田市立秋田商業高校  
**渡辺淳一** わたなべ・じゅんいち  
 教職歴24年。同校に赴任して4年目。進路指導部主任。「成り行き任せではなく、明日吹く風を読み取れる生徒を育てたい」



秋田市立秋田商業高校  
**宇佐美晋哉** うさみ・しんや  
 教職歴19年。同校に赴任して11年目。進路指導部3年部主任。「帰ってくるところをつくる」



秋田市立秋田商業高校  
**原田真紀子** はらた・まきこ  
 教職歴10年。同校に赴任して6年目。進路指導部3年部主任。「仕事にも生徒にも自分にも誠実に向き合う」



秋田市立秋田商業高校  
**櫻庭咲子** さくらば・ゆか  
 教職歴、同校赴任歴共に7年。進路指導部、3年部主任。「現状に満足しない。生徒に寄り添い、生徒の可能性を伸ばす」

## 担任団が率先して 大学入試制度を研究

宇佐美先生がまず取り組んだのは、学年団の意思統一であった。同校存続の危機感を伝え、国公立大合格者数2桁の目標と、商業高校の専門性を生かすためにセンター試験を課さない国公立大の推薦入試に挑戦させる方針を示した。3年部主任の櫻庭咲子先生は、こう振り返る。

「それまでは、国公立大志望の生徒がいた場合にのみ個別に対応する体制であり、本格的に国公立大入試の指導をするのは、私は初めてでした。入試制度を知るところから始めましたが、大学や学部、入試科目、取得資格などの推薦要件を調べるうちに、センター試験を受験しなくても基準を満たしていれば誰でも国公立大を狙えることになり、生徒にぜひ挑戦させたいと考えようになりました」

教師の意思統一をした後は、生徒の気持ちを引き締めた。10年4月、1年部の教師が最も重視したのは、生徒指導の徹底だ。出席日数や身だしなみなどの生活態度は、推薦入試や就職試験の際に重視される要件であり、1年次できちんと指導し、高校生活の土台をつくろうとした。

「生徒指導が徹底できていないと、教師は生徒に振り回されることになります。教師の言葉に耳を傾けられなければ、進路選択に際しても、最後の最後に志望校を諦めて安易な

選択をしかねません。教師の指導が生徒により響くようにするためにも、最初の生徒指導が重要と考えました」(宇佐美先生)

生徒指導を厳しくしたからといって、指導の回数や守るべきルールが増えたわけではない。指導の質に徹底的にこだわったのだ。1クラスでも指導から逸脱すると、学年全体が緩む。そうしたことがないよう、担任間で指導の基準を統一し、例外は許さない態度で指導に臨んだ。その効果もあり、同学年では生徒指導上の問題はもろろん、3年次で進路指導をめぐる生徒と教師の行き違いが、例年に比べて少なかったという。これまでもなら弱音を吐いて、国公立大を諦めるような場面でも、生徒は教師を信じて、高い目標への挑戦をやめることはなかった。

## 積極的に学習する意識を 朝学習で醸成

国公立大合格者数2桁に向けた取り組みの柱は、学力向上と資格取得だ。

学力向上策の1つめの柱は、朝学習の充実。1年次では国教英と資格試験の対策、2年次では一般教養に加えて小論文模試に向けた指導を行い、3年次では更にコラムを読んで1000字程度の意見にまとめる論文指導を行うことで、文章力を養いながら社会への視野を広げた。

それまでも朝学習は行っていたが、学年によ

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

つては、開始時間寸前に教室に入る生徒や、私語をする生徒が目立っていた。そこで、同学年では時間前着席を徹底して、学級全員が同じ意識で頑張る雰囲気を作成すると共に、学習の取り組み状況を担任が全て確認し、いい加減な姿勢を見逃さないように努めた。3年部担任の原田真紀子先生は次のように述べる。

「導入期指導で最も意識したのは、真面目に学習に取り組む姿勢を生徒に定着させることでした。正解かどうかというよりも、きちんと問題に取り組む解答しているかを見ました。担任が必ずチェックしていることを生徒に意識させるために、担任がコメントを書いて返却するようにしました。いい加減な態度は決して許されないという意識を、1年次の最初から持たせることが出来たと思います」

### 模試データを蓄積し 未来へと続く学校の財産に

学力向上策の2つめの柱は、模試の有効活用だ。ベネッセの「進路マップ(実力診断テスト・実力判定テスト)」と「ファインシステム」を新たに導入。模試は、1年次2回、2年次3回、3年次1回の実施とし、その結果を学習の動機付けにすると共に、全国の商業高校に通う生徒の中で、自分がどの位置なのかを生徒に分かるようにした。

模試の活用には、学校の財産として生徒の学力データを蓄積する目的もあった。それまでも各学年で模試を実施していたが、時期や回数がまちまちな上、データを共有していなかった。過年度比較をして生徒の合格可能性を測ることが出来なかったため、同学年以後は、他学年も時期を合わせて実施することにした。今は、進路指導の資料として模試データを活用する環境が整いつつあるという。

模試の事前指導は、進路マップに付属している教材を長期休業の課題とし、それを休み明けに提出させて、国数英の教科担任が取り組み状況を確認。模試実施後は、学年会で結果を分析した上で、各教科担任が生徒一人ひとりに弱点とその対策をアドバイスする。模試の実施・分析を通して、生徒は自分の実力を知り、全国に同じように頑張る仲間がいることを強く意識するのである。

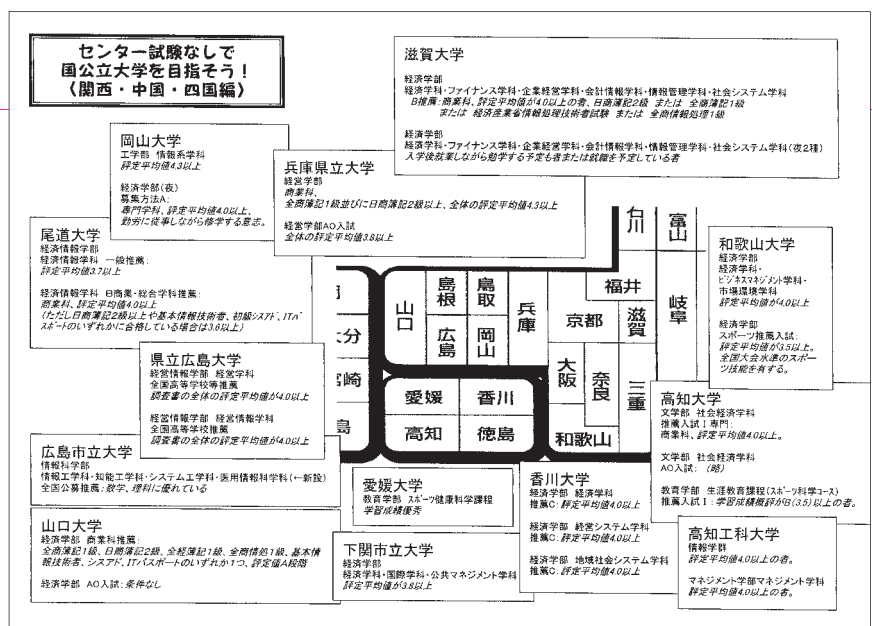
### 生徒の意欲に添えて 土日にも資格取得指導

学力向上策と並行して、簿記を中心とする商

業系資格の取得の支援も充実させた。資格取得は国公立大の推薦入試に挑戦するための必須要件であり、商業科の教師を中心に学年団が最も力を入れた取り組みだ。1年次は朝学習で資格試験の対策を行い、2年次からは試験前に限らず、毎週月水金の放課後、日商簿記検定2級の受験講座を開いた。

厳しかったのは部活動との両立だ。同校の部

図 学校独自で作成した「国公立大入試情報の全国地図」(抜粋)



宇佐美先生の学年では、日常的に国公立大進学を意識できるよう、学年の廊下の壁に、取得資格と学業成績を生かして進学できる国公立大の一覧を日本地図に示して掲示 \*学校資料から抜粋して掲載

活動加入率は全学年100%で、補習のために部活動を休ませることは一切しないという方針だった。そこで、生徒が部活動に影響なく、補習を受けられるように工夫した。

「部の試合や遠征などで補習に来られなかった生徒、学習についていけない生徒のために、1人でも補習を受けたいという生徒がいれば、土日や長期休業でも補習を行いました。生徒も資格の重要性をよく理解しており、前向きに取り組んでくれたので、教える私の方にも自然と熱が入りました」(櫻庭先生)

## 生徒を引っ張るには 教師の熱意あるのみ

同校は、生徒や保護者の進学意識の向上にも取り組んだ。修学旅行で訪れた大阪では私立大に依頼し、キャンパス案内と模擬講義を実施してもらった。更に、自主研修としてグループごとに京都市内の大学を訪問させた。

普段の指導でも、担任が国公立大の魅力や資格取得の必要性を説き、国公立大への進学に悩んでいる生徒がいれば、面談を繰り返した。

「それまで、一部の教師が大学進学の意味や魅力を生徒に語るだけでしたが、学年団が組織的に行ったことで、大学進学は自分にとって無関係ではないと思う生徒が増えました」(原田先生)

一連の取り組みは、同校に大きな成果をもたらした。例年3割程度の合格率だった日商簿記検定2級で、会計コースの75人中67人が合格。更に、その勢いは続き、13年度大学入試では14人が国公立大に合格した(13年2月時点)。1年次に掲げた国公立大合格者数2桁の目標を達成したのだ。

「どの学年の生徒も、資格取得や大学進学の重要性は分かっています。しかし、そのために頑張れるかどうかは、教師がどれだけ引っ張れるかにかかっていると思うのです」(宇佐美先生)

就職状況も好調で、学力試験で好成绩を上げ

## 情熱 若手教師が語る、指導変革への

### 一貫性と継続性が 取り組みに説得力を与える

3年部主任 宇佐美晋哉

消費者の多様なニーズに応えることが、企業の生き残りには不可欠です。それは学校でも同じだと、私は思います。「商業高校に行ったらいい大学には行けない」。生徒にそう思われたら本校の未来はありません。今が本校の生き残りをかけた分水嶺であり、その布石になろうと心に決めて改革に取り組んできました。

仕事を進める上で心掛けているのは、取り組みに一貫性と継続性を持たせることです。それがなければ説得力は生まれず、人はついてきません。いくら主任になっても、リーダーシップを発揮させてくれるスタッフがいないれば学年組織は動かないのです。もう1つ意識しているのは、常に社会に向けてアンテナを張り続けることです。新聞は毎日3紙を読み、読書は専門の日本史の他、民間の発想を取り入れるために経済や経営の本も読んでいます。また、主任になってからは月1回、県の中小企業同友会の定例会にも出席しています。根底には、生徒の心に私の言葉を残したいという思いがあります。生徒が40歳になった時、「宇佐美先生はあんなことしか言えなかった」と思われたくないという一念が、私を勉強に駆り立てます。

12年度の学年目標は「後世に素晴らしい秋商を残そう」でした。生徒への呼び掛けであると共に、自戒の言葉でもあります。私も次代に何かを残さなければなりません。本校の存続と県の商業教育の発展のために、本校の存在意義、進学指導のノウハウ、スポーツの大切さなどを、生徒や若い先生方に伝えていきたいと思っています。

て内定を決める生徒も多かった。学力向上の取り組みが、就職試験においても相乗効果をもたらしたのである。今後の課題は、学年の取り組みを他学年に波及させていくことだ。進路指導部主任の渡辺淳一先生は語る。

「この実績を一時的なものとしないうちに、取り組みを他学年に引き継ぐことが大切です。実績を上げるために何が必要なのが具体的な形として見えてきた今、学年団の方針を尊重しながら、学校全体で足並みをそろえて進めるよう働き掛けていくつもりです」

同校の「次の100年」に向けた礎は、着々と固まりつつある。

# 「もっと響く指導」に するために！ 生きたデータの徹底研究

「データ」を活用して客観的に生徒の状況を捉え、指導の方針を整理する方策を伝えてきた「生きたデータの徹底活用」。さらに響く指導を実現するために、現場の先生方と改めて指導のポイントを確認し、「データ」の改良を検討します。

## テーマ 1年生 入学直後の取り組み



「生きたデータ」2012年2月号を参考に、  
クラス目標づくりをしてみたところ……

入学生を高校生にするために学年団で共有する「クラスの目標づくりのポイント」

ダウン  
ロード

ポイント	理由	これまでのクラス目標の例
クラス担任として「これだけは譲れない」というこだわりを、クラス目標などで生徒に示す	生徒が自立した一人の人間として自己決定できるようになるには、周囲の大人が生徒と対等な「一人の人間」として自らの意思やこだわりを示すことが有効だ。「担任はこういう人だ」と生徒が理解できるようなこだわりを示す。	「始業時などの挨拶は必ず相手の顔を見て、声を出して行う。出来ない人がいれば何度でもやり直す」(A先生)
達成に向けての努力を褒めることが出来るようなクラス目標を設定する	目標はただ掲げるだけではすぐに形骸化してしまう。目標に向けての努力を担当が日々評価できるような目標とする。やって当たり前ではなく、一定の努力が必要とされる目標を設定することで成長を褒め、更に意欲を高められる。	「授業開始1分前には着席し、静かに先生を待つ」(C先生) 「行事に全力で取り組み、学年1位を1つでもとる」(D先生)

### 私の狙い

自分たちで目標を掲げることで、高校生としての自立を促そうとした

### 取り組み内容

生徒から案を募り、担任である自分のこだわりも生徒に語りながら、「クラスの年間目標」を3つに決め、教室の後ろに掲示

### 感じた課題

クラスのまとまりは悪くなかったが、掲示された目標が話題になることは少なく、形骸化。高校生への「自立」のために、クラス目標を生かすきれなかった

「もっと響く指導」  
のポイント

1

3年間を見通した自立に向けて  
生徒が共感できる目標を掲げる



2012年2月号の「クラスの目標づくりのポイント」(上図参照)を読み、高校生の自立のためのクラスの目標づくりの意義を確認しました。しかし、実践してみるとクラス目標を根付かせるのは簡単ではありませんでした。目標の1つが「勉強できる環境づくり」なのに、教室の棚が散らかったままになってしまって……。クラスの中で目標が浸透したとは言えない状況でした。



新入生を高校生にして、高校生としての自立を促すには、まず新入生ならではの不安を取り除くことが大切です。クラス集団で一体感をつくりながら、自分の役割や居場所を見付けられる状態を、生徒自身がつくること出

来れば理想的です。



全員で力を合わせて、クラス目標を実現させていく程クラスの居心地が良くなる。そんな目標を掲げるということですか……。確かに、私の場合は「もう高校生なのだから」と、自立というよりも規律の遵守を求めすぎていたのかもしれない。



もちろんそれも大切なことです。よ。しかし、生徒自身が成長や変化を期待できる言葉で目標を設定できないと、共感できずに、ひとごとと受け止められてしまうかもしれません。生徒がいつの間にかクラス目標にこだわりきれなくなり、目標が形骸化するのそれは一因かもしれません。

### 若手先生代表

関東地方の公立高校に勤務。13年度は2回目の1学年担任。



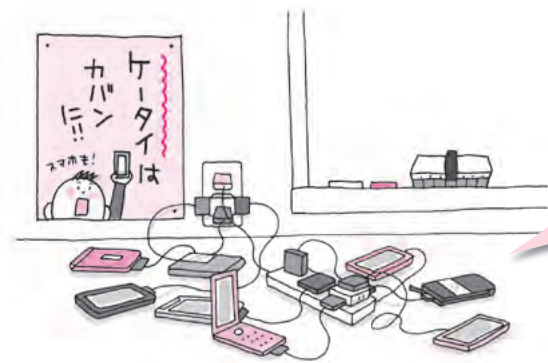
G先生(30代)

### ベテラン先生代表

中国地方の公立高校に勤務。各学年の主任経験豊富。



T先生(40代)



以前、私のクラスでは「勉強できる環境づくり」というクラス目標の一環として「放課後まで携帯電話をカバンから出さない」というルールを全員で決めました。しかし、ふと気が付くと、教室のコンセントにはいつも充電中の携帯電話が……。



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」改訂案

● 「自立」のために「クラス目標」を活用する指導のポイント

- ・生徒自身が、高校生活に安心し、成長や変化を期待、実感できる目標にする
- ・学校として3年間で育てたい生徒像の到達へ向けた目標になるよう、学年団で軸となる目標を共有、目線合わせする

スクール・アイデンティティとリンクした「クラスの目標づくりのポイント」検討シート



クラス	〈学年共通〉 3年間で育てたい 生徒像	〈学年共通〉 1学年として 目指す生徒像	担任としての クラス目標案	新入生の 特徴を踏まえた 指導ポイント、留意点	指導ツールや場面
1組					・1学期 ・2学期 ・3学期
2組					

学年運営方針を議論する中で共有される要素を、生徒にも分かりやすく言語化する。クラス内で、1年を通して語り続けられるような言葉を選びたい

SIあるいは学年の経営軸に繋がるものから、「クラス全員で協力し合って、少し頑張れば達成できること」を設定するとよい

「もっと響く指導」のために改訂すると……

データを生かす指導の流れ

具体的な文言は各クラスの裁量に任されていても、学年共通の指導軸と一致するためには、クラス開きに先だって、学年団でのすりあわせが必要。

- 1 3年間で育てたい生徒像から、1学年として目指す生徒像を学年団で確認。各クラス担任の思いなども加味しながら、学年運営の軸となるものを学年団で共有。
- 2 学年共通軸を理解しながら、改めて各担任が自分のクラスの経営方針を、担任裁量で検討。
- 3 それぞれのクラスのHR活動で、生徒と共にクラス目標を言語化する。1年間の指導では、この目標を常に意識しながら活動を行う。



3年間で掛けて社会で求められる人間力を育成する、すなわち「自立」を促すのは、高校の使命でもあります。これは学校のスクール・アイデンティティ（SI）と強固に結び付くものです。各クラス目標がSIに沿ったものであり、卒業まで生徒がどのようにこの学校で育っていくかを、各担任がSIを感じさせながら語る事が大切です。例えば、「掃除で手を抜かないクラス、教室が整然としているクラスは入試でも良い成績を収める」とよく

言われます。これを自らが目指す姿、SIとして生徒が理解することが出来れば、「勉強できる環境づくり」というクラス目標は、新入生の自立を促す学校文化となるでしょう。SIと関連させて考えるには、おのずと学年団での目線合わせも必要になってきます。



3年間の成長を見通した目標設定と生徒にその意味を伝える声掛け、学年団で足並みをそろえた目標設定が新入生には必要なのですね。



保護者とコミュニケーションをとる大切さは分かっているつもりですが、実際には「トラブルが起きなければいいが……」と不安ばかりが先に立ってしまい、なかなか心を通わせることが出来ていません。



「生きたデータ」2012年2月号を参考に、保護者との関係づくりを試してみたところ……

「もっと響く指導」のポイント

②

学校との関係性を伝える先輩保護者の振り返りシート



テーマ・出来事	先輩保護者の振り返り(子どもが高1時の悩みや不安)	当時の学校からの回答
毎日の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>塾に行かせた方がよいのか迷った。</li> <li>なかなか机に向かわず、テレビの前でだらだらしている子どもにイライラしてしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの課題と毎日の予習復習で十分です。本校では、授業中心の学習で入試学力も身に付きます。</li> <li>「勉強しなさい!」では子どもは勉強しません。テレビを消すなど、学習できる環境をつくりましょう。</li> </ul>
定期テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校では考えられなかったような低い成績をとってしまい、子どもと共に落ち込んでしまった。</li> <li>範囲が広く、テスト勉強の負担も大きいようで、本人が疲弊し、自信を失っているようだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校では同じような成績の生徒が集まっていますが、まだ差は大きくなく、ばん回は十分可能です。</li> <li>短時間の学習では間に合いません。日々の予習復習の継続がカギになることを家庭でも伝えてください。</li> </ul>

私の狙い

高校生活のイメージを伝え、高校生の保護者としての意識を高めていただこうとした

取り組み内容

過去の事例を用いて、保護者の方が悩みそうなことと、それに対する学校の考えを、入学式直前の学校説明会で伝えた

感じた課題

この資料への評価は高かったものの、これ以降も、保護者の方からの不安の声や要望の声は多く、効果があつたようには感じられない

学校の実践を在校生の声と共に伝え、保護者に安心感を持ってもらう



保護者の皆さんに対して「高校生の保護者」としての意識を持っていただきたいと思うことは多々あります。



保護者との関係が難しくなったのは事実ですよね。でも、生徒を中心に考えれば、学校と保護者はチームになるべき関係です。



おっしゃることは分かります。でも難しいですよね。



保護者が学校に要望をぶつけてくるのは、学校と対立したいからではなく、子どもの幸福を願う気持ちがそれだけ強いからだとは考えられないでしょうか。我が子が一番かわいいというのは保護者として当たり前の感情だと

思います。



2012年2月号(上図)のように、学校の考えを伝えてみたのですが、それでもまだ保護者から要望や不満をいただいていたのは、不安な気持ちがぬぐえなかったからだと考えべきなのですね。



学校が子どものためにしっかり指導していることが理解できれば、保護者は学校の強力な応援団になれる存在です。チーム化を進めるために、このデータを改訂して、高1の生徒の様子と保護者が抱えがちな不安を時期ごとに整理した上で、学校としての考えを伝えるだけにとどまらず、実際に行っている取り組みを伝えるのも一案です。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ダウンロードできます！

生徒指導・進路指導ツール集

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータ

検索

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも同じウェブサイトでご覧いただけます。併せてご活用ください！

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→

生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

2007年6月号「1年生1学期の保護者に対する意識付け」

2008年4月号「1年生を高校生にする意識付け」

2012年2月号「中学生から高校1年生への自立を促す入学直後の指導」など



「もっと響く指導」のポイントと  
「生きたデータ」改訂案

保護者の悩みに沿った学校の実践報告シート



テーマ・出来事	時期	先輩保護者の振り返り (子どもが高1時の悩みや不安)	当時の学校からの回答	学校としての取り組み	2、3年生の体験談
毎日の学習	入学直後	<ul style="list-style-type: none"> <li>塾に行かせた方がよいのか迷った。</li> <li>なかなか机に向かわず、テレビの前でダラダラしている子どもにイライラしてしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの課題と毎日の予習復習で十分です。本校では、授業中心の学習で入試学力も身に付きます。</li> <li>「勉強しなさい!」では子どもは勉強しません。テレビを消すなど、学習できる環境をつくりましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期の間は教科ごとに予習復習の方法を特に丁寧に指導します。</li> <li>ノートチェックや学習習慣調査を行い、家庭学習の状況を把握します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語と数学の授業のペースの速さに戸惑ったが、予習用のプリントや週末課題に取り組むことで基礎が固まることが分かった。</li> <li>先生に教えられた通りにノートを使うと、定期テスト対策が楽だった。</li> </ul>
定期テスト	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校では考えられなかったような低い成績をとってしまい、子どもと共に落ち込んでしまった。</li> <li>範囲が広く、テスト勉強の負担も大きいようで、本人が疲弊し、自信を失っているようだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校では同じような成績の生徒が集まっていますが、まだ差は大きくなく、ばん回は十分可能です。</li> <li>短時間の学習では間に合いません。日々の予習復習の継続がカギになることを家庭でも伝えてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間テスト後、1年生は面接週間を実施し、担任が個別フォローを行います。</li> <li>定期テストの成績は部活顧問とも共有しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めての定期テストは、勉強のペースが分からず失敗した。中学校と違って、テストの3週間以上前から準備しなければいけないと、先生に面談で教えてもらい、期末テストではばん回できた。</li> </ul>

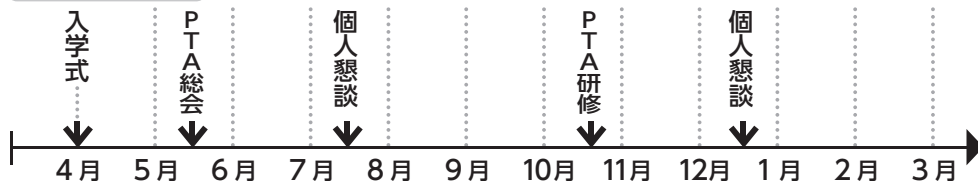
**Point** 1年間を通して、どの時期にどんなことが予測されるかを説明し、保護者に心の準備をしてもらうことも大切

**Point** 学校内の指導体制や在校生の生の声を掲載すると、学校の様子がより見えてきて、説得力が高まる

データを  
生かす  
指導の流れ

入学前説明会や入学式で資料として配布して終わりにするのではなく、学校行事のタイミングに合わせて、「本校ではこんな指導をしています」と伝え、安心してもらうようにする。

私の高校の例



「もっと響く指導」のために  
改訂すると...



こうしたシートを学年団で共有しておく、特に初めて担任をされる先生にとってはとても心強いバックアップになりますね。



「高校生の保護者だからこうあってほしい」とこちらが要望するよりも、**子どもと学校の様子を知って安心してもらう中で、「自分は学校にどうかかわるか」をそれぞれの保護者に考えていただく**イメージです。生徒がつまずきそうな時にも盤石な

指導体制があることを、**在校生の生の声で裏付けできれば、さらに生徒の成長の様子がイメージしやすくなり、保護者の納得度はぐっと高まる**でしょう。保護者が学校の様子をリアルタイムで理解できれば、家庭と保護者の連携はきっと強くなります。安心感と連帯感でチーム化を進めていきたいですね。



今年度の取り組みを次の学年に引き継げるように、保護者の声を記録していきます！

### 自治体と連携したネットワークにより 被災地での看護活動の効率化を図る

高知県立大大学院 健康生活科学研究科 山田<sup>さとる</sup>覚研究室

災害が発生すれば、程度の差はあれ、日常の秩序は崩れてしまう。通信・伝達の方法が著しく制限され、的確な判断をするために必要な情報が手に入らず、人手や物資が不足してもその補給が難しくなることもある。そうした状況の中、看護師はどのように被災者を支援していけばよいのか。日本が世界に先駆けて研究してきた学問領域である災害看護学の第一人者の山田覚教授は、各地の看護協会が自治体と連携し、情報を共有することが鍵を握ると語る。

#### フローチャートで分かる山田覚研究室

##### 大学院生の 主な出身分野

看護学  
など

◎被災地での看護活動の充実を目指す学問であるため、研究には看護経験が必要であり、研究室に在籍する学生は全員が看護職の免許取得者である。ただ、一口に看護学と言っても、急性期看護、慢性期看護、成人看護、小児看護、精神看護など、専門領域は細分化されており、それぞれの領域出身の学生が研究室に所属している。

##### 研究にかかわる 学問分野と研究内容

人文科学  
外国語学など

社会科学  
政治学、経済学、  
法学など

災害看護学

自然科学  
医学、工学、  
情報科学など

◎災害による被害は、被災者ごとに程度も内容も異なる。看護師が被災者の求めに応じて多様な支援を行うためには、看護学の専門領域を横断する必要があるのはもちろん、言語や政治、経済、法律、医学、理工学など、人文・社会・自然科学のあらゆる学問領域の専門家と連携することが求められる。

##### 研究成果と 社会のかかわり

政策提案

提案推進

「その人らしさ」支援

など

◎被災地での看護活動に何が必要かを把握することで見えてきた、実行すべき政策を提案し、推進する。また、被災者一人ひとりの求めにいかに対応するかを追究することは、被災者が「その人らしい」生活を取り戻すことにつながる。

## データを収集・分析し、看護活動に結実させる

災害看護学が求める学生像

情報収集力

情報分析力

実践力

災害看護学の研究は、被災地の実態を明らかにすることから始まります。そのため、災害時に被災者がどのようなことに苦しみ、それに対して看護師に何が出来たかといった看護活動とのかかわりが深いデータはもちろん、行政の対応、自治体間の連携の有無など、被災地に関するあらゆるデータを、必要に応じて手に入れなければなりません。被災直後の混乱している状況下でしばしば飛び交う信用性の疑わしい情報も、被災地の実態を把握する上では貴重です。広く情報を収集する力が、この研究では求められます。

情報を得てからは、被災者の求めに応じた看護活動が出来たかどうかを調べ、出来なかったとしたら、その原因と解決策を考えていきます。ここでは、データを読み取り、分析する力が必要になります。

研究の成果は、被災地での看護活動に結び付けられてこそ意味を持ちますし、災害看護学の研究者はほとんどが看護師です。研究で得た知見を生かせるように、看護の技術を磨くことも欠かせません。

### 高校生へのメッセージ

看護は他者があってはじめて行い得る行為であるため、相手の立場に身を置いて、話したり考えたりすることが必要です。また、看護師には患者だけでなく、患者の家族とも円滑に意思疎通することが求められるので、高校時代にコミュニケーション能力を高めておきましょう。

看護は他者があってはじめて行い得る行為であるため、相手の立場に身を置いて、話したり考えたりすることが必要です。また、看護師には患者だけでなく、患者の家族とも円滑に意思疎通することが求められるので、高校時代にコミュニケーション能力を高めておきましょう。



山田 覚 教授

やまだ・さとる 高知県立大学大学院健康生活科学研究所教授。高知県立大学博士課程教育リーダーディングプログラム「災害看護グローバルリーダー養成プログラム」コーディネーター。日本災害看護学会前理事長。東海大学大学院工学研究科博士課程修了（工学博士）。日本アイ・ビー・エム株式会社大和製品開発研究所係長を経て、1998年から現職。主な著書に『災害看護学習テキスト 概論編』（共著・日本看護協会出版会）など。

### 研究を始めたきっかけ

## 高知豪雨水害の惨状を前に無力さを痛感した

私は長年、看護経営工学を研究し、効率的で質の高い看護を実現するための組織づくりなどをやってきました。災害看護学を研究するようになった。

つたきっかけは、1998年9月24日、25日にかけて発生した高知豪雨水害です。9月の年平均降水量の約3倍もの雨がわずか2日間で降り、各地で河川が決壊。土砂崩れも発生し、死傷者は18人に上りました。

私たちはその惨状を目の当たりにし、高知県看護協会や県立病院などに、被災者に対する手当ての状況を電話で問い合わせました。必要に応じて、他の自治体に人的・物的支援を要請するつもりでしたが、返答はいずれも「こちらだけで対応できている」というものでした。

被災直後は看護の現場が混乱しているためか、実際は人手も物資も不足しているにもかかわらず、支援は不要であると答えてしまったケースが、過去にも多くあります。それを知っている現在の私であれば、電話

ではなく、自分で足を運んだり、人を派遣したりして、状況を直接確認したでしょう。しかし、当時の私は、現場からの返答を鵜呑みにしてしまいました。徐々に被災の実態が明らかになっていった時、自分の無力さと共に、災害時の看護活動について研究する必要性を痛感したのです。

### 研究概要

## 被災地での看護活動充実の鍵は自治体との情報共有

災害看護学は、専門に研究されるようになってから十数年しか経っていない、新しい学問領域です。もちろん、看護師は昔から、自然災害や

事故、戦争などのさまざまな非常事態において、被災者に救護の手を差し伸べてきました。ただ、個別に行われてきたそうした看護活動は、日本でも海外でも、ほとんど研究の対象とはされませんでした。しかし、<sup>①</sup>阪神・淡路大震災、<sup>②</sup>地下鉄サリン事件と、まれに見る大災害、事件が続発した95年以降、日本では研究が本格化していきました。

看護学は、<sup>③</sup>急性期看護、精神看護、小児看護など、いくつもの領域に分

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

かれており、日常の看護では、看護師一人ひとりが自分の専門領域で活動します。ところが、災害時には、いくつもの領域にわたる傷病者が同時に続出するため、自分の専門領域以外の知識と技術も身に付け、患者に対応していく必要があります。

人手も物資も不足する非日常的な環境の中で、領域を横断して活動するためには、被災地で求められる知識と技術を体系化しなければならぬ、そのことに看護師たちは気付いたのです。そして、98年12月、災害看護に特化した世界最初の学会として、日本災害看護学会が発足しました。その3か月前に高知豪雨水害を経験していた私は、直ちにこれに加盟しました。

災害看護学では、被災者への支援を充実させようと、看護の各専門領域の技術を高める方法を考察したり、災害の知識を普及させるための教育方法を検討したりと、さまざまな研究が行われ、研究対象者も、被災者、被災地における看護師やボランティアなど多様です。

私は、看護協会と自治体が一体となった、災害看護支援ネットワーク

を構築するための研究に力を入れています。被災した自治体は災害対策本部を設け、そこに情報を集約しやすから、冷静・的確な看護活動を行うためには、自治体からの情報提供が欠かせません。また、被災者と身近に接している看護師からの情報が自治体に届いてこそ、被災の実態に応じた人的、物的支援も可能になると思うのです。

研究では、まず各都道府県の看護協会や自治体へのアンケート調査などにより、両者の連携体制の有無や程度についてのデータを収集します。そして、連携を実現させるために整えるべき環境、実現を阻む要因などを分析していきます。

災害はいつ、どこで発生するかわからないので、一刻も早くネットワークを全国に広げたいのですが、統計的なデータがなかなか得られないなど、各地の連携の実態を把握することには課題があります。しかし、徐々に連携体制が広がっていることは確かです。東日本大震災において、各被災地で県外から派遣された看護師がスムーズに活動できたのは、地元の看護協会と自治体との連携があ

ったからこそだと考えられます。

## 研究の展望

### 学際的視野を備えることが求められる

近年、看護の現場では「患者が「その人らしく」生きるための支援を重視するようになりました。患者ごとに異なる価値観に応じた看護を行う

ようになっています。

非常時には、行政による支援が被災者全員を救うことに集中し、対応が一律になりがちなので、看護師が被災者一人ひとりに寄り添うことが日常時以上に大切になります。

看護師は被災者の最も身近な支援者の1人ですから、病気やけがを治すばかりでなく、生活の全てに関して手を差し伸べる必要があります。看護師だけでは不可能な支援も行えるように、医師や薬剤師といった医療従事者はもちろん、エンジニアや法律家など、従来、看護師とのかかわりが薄かった学問分野の専門家とも、連携しなければなりません。学際的な視野と知識を備え、今後の災害看護を牽引する人材を育成していきたいと考えています。

## 用語解説

### ① 阪神・淡路大震災

1995年1月17日午前5時46分に発生した、兵庫県淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の巨大地震による災害。兵庫県を中心として阪神地方に家屋の倒壊やライフラインの壊滅など、甚大な被害をもたらし、死者数は6000人以上に上った。

### ② 地下鉄サリン事件

1995年3月20日に東京都で起きた、宗教団体オウム真理教による無差別大量殺人事件。営団地下鉄（現、東京メトロ）3路線の車内で猛毒のサリンが散布され、乗客・駅員12人が死亡、14人が重度の中毒症となり、約3800人が負傷した。

### ③ 急性期看護

症状の発生・進行が急激であり、生命の危険がある患者に対する看護。どこに異常があるかを早急に発見し、合併症を予防するための処置などを行う。

### ④ 日本赤十字広島看護大の前身である看護学校の女子生徒

日本赤十字社広島支部病院救護看護婦生徒養成部の生徒で、当時は看護婦生徒と言った。同校は広島赤十字看護専門学校を経て、現、日本赤十字広島看護大。

# 被災地で活動する看護師をどう支援できるか



中信利恵子 教授

なかのぶ・りえこ 2012年、高知県立大大学院健康生活科学研究科博士課程修了。12年度から日本赤十字広島看護大教授。広島市立<sup>ふないり</sup>入高校卒業。

**Q** なぜこの分野に進んだのですか

**A** 1945年8月、原子爆弾投下直後の広島では、日本赤

十字広島看護大の前身である看護学校の女子生徒たちが看護活動を行いました。広島で生まれ育ち、看護学校の後輩となった私は、彼女たちを尊敬していましたし、原爆の恐ろしさを風化させないためにも、彼女たちの活動を記録に残しておきたいと考えました。そこで、日本赤十字広島看護大に助手として採用された

頃、連絡がついた当時の女子生徒十数人に対面取材をしたのです。

「懸命に手当てをしても、救えない命があったけれど、他者を支援することの尊さを改めて強く感じました」。そうした声がどの人からも聞かれ、全員との対面取材を終えた私は、「被災地という過酷な状況での看護活動について研究したい」と思うようになっていました。

**Q** 山田先生の研究室での研究内容を教えてください

**A** 災害看護を行う看護師への支援の仕方を研究しています。被災地で活動経験がある全国の看護師500人以上にインタビュー調査とアンケート調査を実施したところ、「被災地から帰ると、自己不全感に陥った」という声が多く聞かれました。その原因を分析すると、患者の状態の変化が短期間の看護活動ではなかなか見られないことが、看護師に無力感を抱かせるのだと分かりました。また、被災地では、普段よりも重篤な症状の患者と接する機会が多く、極度の緊張を強いられることも原因の1つでした。つまり、頑張っても結果が表れないこと

に、心が折れてしまうのです。

では、そうならないためには、何が有効なのか。私は、3つの仮説を立てました。1つめは、患者に大きな変化は見られないことを教えられた上で災害看護を行うこと。2つめは、被災地から帰ったら十分に休むこと。3つめは、周りが「頑張った」「よくやった」と声を掛け、看護師の自己肯定感を高めることです。

東日本大震災の被災地での看護活動では、私の仮説を裏付けるデータが得られています。更に調査・分析を続けたいと思っています。

**Q** 高校生へのメッセージをお願いします

**A** 私はずいぶん回り道をしながら、研究を続けてきました。

専門学校を出て看護師になり、母校の教員をしながら4年制大学の夜間部を卒業。博士課程では、研究と仕事を両立させました。そのため、研究時間が足りず、3年間で書き終えるつもりでいた博士論文は、結局、完成までに5年間掛かってしまいました。

研究を続ける中では、本当は机に向かわなくてはいけないのに、疲れてベッドに倒れたこともあります。しかし、研究をやめようと思ったことは一度もありません。好きで始めた研究ですし、学べば学ぼうと面白さを感じたからです。人間、好きなことなら、少しくらい辛くても頑張れます。皆さんも、興味のあることに積極的に挑戦してみてください。

## 私の高校時代

### 勉強と部活動を両立させ諦めない気持ちを鍛えた

●高校では、バスケットボール部に所属していました。平日は毎日夜まで練習があり、土曜日や日曜日に試合が入ることもしばしば。一生懸命練習しているのに、地区大会で勝ち進めず、悔しい思いをしたこともあります。それでも、仲間と一緒に汗を流すのが楽しくて、3年間続けることが出来ました。

部活動が忙しかったため、勉強時間は思うようにとれませんでしたが、部活のせいで成績が落ちたと思われなくなかったので、勉強にも全力で取り組みました。学校から帰ったら、ぼんやりせずにすぐに机に向かい、短い時間でも集中して勉強する習慣を付けました。その結果、「決して諦めない」という気持ちが鍛えられ、勉強と部活動を両立させることが出来ました。

この経験が、仕事を続けながら研究に取り組みなければならなかった博士課程で生き、博士論文を書き上げられたのだと思います。

\*プロフィールは2013年3月時点のものです

## グローバルな生き方をモデル化しすぎない

8月号から続いたグローバル化の特集に今一つ乗れずにいたが、2月号の特集には素直に乗れた。それは、登場人物に多様性があり、また、その方自体の特異性もあつたからだとと思う。ただ、このような生き方を理想的なモデルとして多くの人が追い掛けてしまうと、それは主体性を欠いたアンチ・グローバルな行為になると思う。こうした堂々巡りから教師が抜け出さないと、いつまでたつても学校のグローバル化は難しいのではないだろうか。国境なき医師団・辻坂文子さんの「日本人の誰もが国際社会で人道援助の仕事をする必要がある」と思っているわけではありませぬ」という言葉が、非常に印象に残った。日本にも必要とされる素晴らしい仕事はたくさんある。このような視点を無視して、うわべだけの国際化を唱えてしまう教師が多いように思えるが故に、このような例は貴重であると感じた。

〔愛知県立西尾高校・江崎寛〕

## どの教科でも、グローバル化は伝えられる

グローバル化について、英語以外の教科で話すことは難しいと思っていたが、2月号の特集を読み、グローバル人材に求められる資質として、人の話をきちんと聴けることや日本人らしさを生かすことの大切さについては、自分でも生徒に伝えられると思った。また、安定志向の今の若者に対して、一歩踏み出す勇気の大切さについても、もっと話していこうと感じた。

〔兵庫県立姫路西高校・井上智裕〕

# Reader's VIEW

Volume 1

読者のページ

## 読者の先生方からのご意見を紹介します

### 日本のリーダー教育のあり方の1つの良い事例

2月号「指導変革の軌跡」の宮崎県立宮崎大宮高校の実践は、進学校のいわゆる弱み（弊害）が的確に捉えられていた。管理職のリーダーシップ、教育哲学、教師の意識改革の大切さと、改革の方向性が具体的に示されており、全ての教師に読んでほしいと思った。このような進学校が全都道府県に3〜4校ずつあれば、日本のリーダー教育、エリート教育もずいぶん変わることだろう。「志」を持つ学校が増えてほしいし、そうした学校と連携していきたいと思った。

〔三重県立特別支援学校西日野にじ学園・鈴木達哉〕

### 学年団での指導の視点の共有こそ重要

「生きたデータの徹底活用」は、毎回さまざまなデータ活用術があり、ありがたい。どの形のデータ活用術でも、必ずポイントとして「学年団での共有」が挙がっている。実はデータ活用術よりも視点の共有が重要なのではないだろうか。視点の共有のためのツールとしてデータが活用されているように思う。視点の共有をどのように図るかを考えていきたい。

〔秋田県立能代高校・柏谷浩樹〕

### 教師川柳

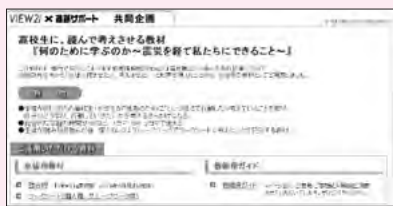
校門に別れと出会いの光射す

兵庫県・とんちんかん

## 高校生に読んで考えさせる教材（無料）

### 「何のために学ぶのか～震災を経て私たちにできること～」をご用意いたしました

〔VIEW21〕高校版2012年6月号の特集「他者のために学ぶ」をお読みいただいた先生方から「授業で生徒に読ませ、考えさせたい」との声を多くいただきました。そこで、記事にワークシートなどを加えた、生徒用教材をご用意しました。ぜひ、「総合的な学習の時間」やLHRなどでご活用ください。右記ウェブサイト「ベネッセハイスクールオンライン」から無料でダウンロードしていただけます。



\*内容や画面デザインは変更になる場合があります

<http://bhs0.benesse.ne.jp>

\*Benesse High School Online は高校の先生専用の情報サイトです。ご利用には学校別のID・ログインコードが必要です

### 編集後記

◎教科教材を長年編集していたこともあり、今回の特集取材は大変興味深いものでした。新課程という、「言語活動」や「活用の重視」などがクローズアップされがちですが、それらの活動は「知識・技能の習得、定着」がなくては充実しないということが、全ての教科の先生に共通している認識でした。新課程での改善事項は、生徒の主体性を育む大きな可能性を秘めていると思います。言語活動等を充実させるためにも、いかにして知識・技能を習得、定着させるかを考えることが非常に重要になる、という大きな気付きを得ることの出来た取材となりました。（柏木）

## ベネッセ教育研究開発センター高等教育研究所 ホームページ開設のお知らせ

ベネッセ教育研究開発センター高等教育研究所のホームページを開設しました。高等教育に関連した独自の調査データなどを公開しながら、これからの社会で活躍できる人材を育成するための高等教育改革を支援します。

<http://benesse.jp/berd/koutou/index.html>

# VIEW21

2013  
June  
6月  
Volume 2

次号は  
6月7日発行(予定)

〔VIEW21〕高校版は  
年6回の発行です

VIEW21 4月号 Vol.1

2013年4月2日発行

発行人 岡田大介  
編集人 谷山和成  
発行所 (株)ベネッセコーポレーション Benesse教育研究開発センター  
印刷製本 凸版印刷(株)  
編集協力 (有)ペンタコ  
執筆協力 中丸満  
撮影協力 ヤマグチイッキ  
イラスト協力 カモ  
VIEW21編集部  
〒206-8686 東京都多摩市落合1-34  
電話 042-311-3391

©Benesse Corporation 2013